

第一號欄外登記例

明治參拾貳年五月貳日婚姻無效ノ裁判確定ニ付同月參日東京地方裁判所檢事甲田丁郎ヨリ登記取  
消請求同月四日受附

第三號欄外登記例

本籍人身分登記簿國籍得喪之部第一號參看

附錄第一號ノ七

明治何年

本籍人

身分登記簿

離婚之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一〇九、民八一〇)

明治參拾壹年拾壹月拾日婚姻

妻

麴町區飯田町一丁目二十六番地戶主平民裁縫師  
口 上 ナ ト

右父亡

神奈川縣橫濱市戶部町百番地無職業  
口 上 善 八

右母亡

埼玉縣北足立郡大宮町三番地戶主無職業下屋谷次  
叔父平民小學校教員

夫

文 作

右父亡

明治元年九月七日生

右母

下 屋 權 一

證人

麴町區土手三番町七番地印刷業

川 田 鎗 一

證人

麴町區元園町一丁目六番地土木請負業  
明治八年七月六日生

戶 部 辰 三

右協議ニ因リ離婚明治參拾貳年拾月六日届出同日受附

明治參年壹月五日生

附錄第一號ノ八

明治何年

本籍人

身分登記簿

後見之部

横濱市戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

横濱區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸一四、民九〇〇)

横濱市若松町三番地戸主無職業

甲野巳太郎

被後見人

後見人

森田丁吉

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見開始  
明治參拾壹年八月七日生

東京市芝區田町六丁目十番地平民石屋  
住所 横濱市若松町五番地

右丁吉明治參拾壹年八月拾日就職  
右後見開始明治參拾壹年八月拾日届出同日受附  
第二號(戸一四、一一五)

横濱市若松町三番地戸主無職業  
甲野巳太郎

被後見人

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見人開始  
明治參拾壹年八月七日生

横濱市老松町七番地平民無職業  
住所 同

後見人

原村巳之助

右巳之助明治參拾壹年拾月九日就職

明治元年拾月五日生

前任者

森田丁吉

右後見人更迭明治參拾壹年拾月貳拾日届出同日受附  
第三號(戶一七)

被後見人

橫濱市若松町參番地戶主無職業

甲 野 巳 太郎

橫濱市老松町七番地無職業

明治參拾壹年八月七日生

後見人

右巳之助明治參拾壹年拾月拾九日就職

死亡三因り明治參拾五年六月貳日任務終了

橫濱市若松町五番地平民金物商

前 田 丙 助

後見監督人

右後見人任務終了明治參拾壹年拾貳月貳拾五日届出同日受附

明治元年參月拾日生

附錄第一號ノ九

明治何年

本籍人

身分登記簿

隱居之部

東京市京橋區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一八九、一二三、民七五二、七五三、七五七、七五八)

京橋區入船町參拾番地戶主平民船問屋

須 田 平 助

天保拾年六月七日生

右平助病氣ニ因リ家政ヲ執ルコト能ハサルニ付キ隱居

平助三男無職業

初 三

明治元年貳月五日生

右隱居明治參拾貳年四月五日届出同日受附

第一號欄外登記例

明治參拾貳年拾月拾日隱居取消ノ裁判確定ニ付同月拾貳日京橋區築地一丁目二番地戶主平民無職  
業平助弟須山萬助ヨリ登記取消申請同日受附

附錄第一號ノ十

明治何年

本籍人

身分登記簿

失踪之部

久良岐郡戶部村戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

横濱區裁判所監督列事氏名 職印

第一號(戶一二三、一二四)

明治參拾貳年壹月貳日失踪宣告

久良岐郡戶部村百番地戶主農

宣告請求者

同郡戶部村百貳番地戶主士族無職業音七兄

谷 田 音 七

明治參年五月六日生

天 野 丁 吉

明治元年貳月貳日生

右失踪明治參拾貳年貳月拾日届出同日受附

第一號欄外登記例

明治參拾五年八月四日失踪宣告取消ノ裁判確定ニ付同月五日久良岐郡戶部村百三番地戶主平民農  
音七叔父森口丙吉ヨリ登記取消申請同日受附

附錄第一號ノ十一

明治何年

本籍人

身分登記簿

死亡之部

東京市牛込區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戶一二五)

牛込區加賀町二丁目三番地戶主平民牛乳商乙吉長

菅野丙作

明治貳拾年四月五日生

死亡ノ時 明治參拾貳年壹月六日午後參時參拾分

死亡ノ場所 牛込區加賀町二丁目三番地

届出人 菅野乙吉

明治六年壹月六日生

右死亡明治參拾貳年壹月七日届出同日受附  
第二號(戶一二九)

牛込區早稲田町百六番地戶主平民万吉三男

住田次郎吉

明治五年參月貳日生

死亡ノ時 明治參拾貳年貳月四日午後壹時貳拾分

死亡ノ場所 市ヶ谷監獄署

市ヶ谷監獄署長典款

報告者 井河實

右死亡明治參拾貳年貳月四日報告同日受附  
第三號(戶一三〇ノ一二、二八ノ三)

牛込區藥王寺前町五番地戶主

男 氏家直高

明治參年四月四日生

死亡ノ時 明治參拾貳年參月參日午後貳時五拾分

死亡ノ場所 東京丸船中

神奈川縣橫濱市戸太町三番地學生

爲永時藏

明治五年六月八日生

静岡縣静岡市鷹匠町八番地無職業

龜田真次

明治元年五月九日生

東京丸船長

野口榮造

右航海日誌作製者

右航海日誌作製明治參拾參年參月參日

右死亡ニ關スル航海日誌ノ原本明治參拾貳年參月拾日發送同日受附

附錄第一號ノ十二

明治何年

本籍人

身分登記簿

家督相續之部

東京市赤坂區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一三三、一三四)

赤坂區青山南町三丁目二番地戶主士族官吏

吉次二男 住 田 辰 藏

明治參年貳月四日生

明治參拾貳年壹月六日前戶主父吉次隱居ニ因リ家督相續戶主ト爲ル  
右家督相續明治參拾貳年壹月七日届出同日受附

第二號(戶一三三)

赤坂區壺町五十番地戶主士族學生  
所在地 獨逸國伯林

達夫長男 末 岡 種 松

明治九年拾月貳日生

明治參拾貳年貳月四日前戶主父達夫死亡ニ因リ家督相續戶主ト爲ル  
右家督相續明治參拾貳年參月參拾日届書發送同年五月六日受附

第三號(戶一三五、一三六)

赤坂區青山北町一丁目四番地戶主

胎 兒

明治參拾貳年四月貳日前戶主父作之進死亡ニ因リ相續開始

赤坂區青山北町一丁目四番地士族無職業

届出人 母 山 口 夕

明治參年貳月四日生

右家督相續明治參拾貳年四月參日届出同日受附

第一號欄外登記例

明治參拾貳年四月五日家督相續回復ノ裁判確定ニ付同年五月壹日相續權回復者住田吉次長男丑郎

登記取消申請同日受附  
第三號欄外登記例

明治參拾貳年五月五日胎兒死體分焼ニ付赤坂區青山北町一丁目四番地庶子山口龜男ヨリ同年六月拾日登記取消申請同日受附

附錄第一號ノ十三

明治何年

本籍人

身分登記簿

推定家督相續人廢除之部

東京市本郷區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第二號(戶一三七、民九七五)

登記取消申請同日受附  
第三號欄外登記例

明治參拾貳年五月五日胎兒死體分焼ニ付赤坂區青山北町一丁目四番地庶子山口龜男ヨリ同年六月拾日登記取消申請同日受附

附錄第一號ノ十三

明治何年

本籍人

身分登記簿

推定家督相續人廢除之部

東京市本郷區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第二號(戶一三七、民九七五)

本郷區元町一丁目五番地戶主平民下宿營業北内力  
藏長男無職業

太郎

明治拾年八月七日生

被相續人

北内力藏

右太郎被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シタルカ爲メ廢除セラル明治參拾貳年五月四日裁判確定

文化貳年貳月四日生

右推定家督相續人廢除明治參拾貳年五月六日届出同日受附  
第二號(戶一三七、一三八、民九七五)

本郷區弓町三丁目一番地戶主福永吉藏長男無職業

一郎

明治五年貳月八日生

推定家督相續人

右一郎家名ニ汚辱ヲ及ボスヘキ罪ニ因リ刑ニ處セラレタルカ爲メ廢除セラル明治參拾貳年拾月貳日裁判確定

被相續人吉藏明治參拾貳年六月四日死亡

本郷區湯島新花町六十番地戶主平民無職業

一郎叔父 福田龜三

明治元年參月貳日生

遺言執行者

右推定家督相續人廢除明治參拾貳年拾月四日届出同日受附

附錄第一號ノ十四  
明治何年

本籍人  
身分登記簿  
家督相續人指定之部

東京市京橋區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戸一四〇、一四三、民九七九、九八〇)

商 京橋區采女町一丁目五番地戸主辰郎三男平民書籍

山 岸 吉 次

明治拾年壹月七日生

法定ノ推定家督相續人ナキニ付右吉次指定セラレ

被相續人

京橋區采女町三丁目一番地戸主平民無職業

吉次兄 黒 田 吉 郎

明治元年貳月五日生

右家督相續人指定明治參拾貳年五月貳日届出同日受附  
第二號(戸一四〇、一四一)

京橋區銀座一丁目三番地戸主一郎弟平民無職業

中 野 又 一

明治拾年壹月五日生

被相續人京橋區銀座三丁目二番地平民下田甲三法定ノ家督相續人ナキニ付右又一指定セラレ  
明治參拾貳年七月壹日被相續人死亡

京橋區采女町二丁目一番地戸主平民無職業

甲三弟 高 田 乙 助

明治元年壹月五日生

遺言執行者

右家督相續人指定明治參拾貳年七月拾日届出同日受附

第三號(戸一二四)

商 京橋區采女町一丁目五番地戸主辰郎三男平民書籍

山 岸 吉 次

明治參拾貳年五月貳日指定



指定取消人

明治拾年壹月七日生  
京橋區采女町三丁目一番地戸主平民無職業  
吉次兄 黒田吉郎

明治元年貳月五日生

右家督相續人指定ノ取消明治參拾貳年拾月貳拾五日届出同日受附  
第一號欄外登記例

明治參拾貳年拾月貳拾五日黒田吉郎ヨリ登記取消ノ申請同日受附

附錄第一號ノ十五

明治何年

本籍人

身分登記簿

入籍、離籍及ヒ復籍拒絕之部

東京市神田區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸一四六、民七三五ノ一)

神田區鎌倉河岸二丁目三番地戸主酒佃屋

落合 六兵衛

文化元年貳月四日生

右六兵衛妹キン私生子神田區三河町三丁目一番地戸主平民無職業

尾野兵助

明治五年參月貳日生

廢家ノ上入籍

右入籍明治參拾壹年拾月五日届出同日受附

第二號(戸一四六、民七三七)

神田區錦町一丁目四番地戸主無職業

奥田七郎

文化貳年參月五日生

神田區鈴木町八番地戸主平民無職業

七郎弟 下田鶴松

明治元年貳月拾日生

廢家ノ上入籍

右入籍明治參拾壹年拾月貳拾日届出同日受附  
第三號(戶一四六、民七三八)

神田區小川町五十番地戶主平民書籍商山口太郎  
(明治元年七月六日生)妻無職業

タカ

明治七年五月四日生

右タカ兄本郷區追分町三番地戶主官吏添田五郎(天保貳年參月六日生)三女  
入籍

右入籍明治參拾壹年拾壹月貳日届出同日受附  
第四號(戶一四八、民七五〇)

神田區美土代町一丁目四番地戶主平民青物商三平  
弟無職業

戶口平次

明治五年六月八日生

右平次明治參拾壹年貳月四日戶主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ付離籍セラル  
離籍人

戶口三平

明治元年拾月貳日生

右離籍明治參拾貳年壹月六日届出同日受附  
第五號(戶一四八、民七五〇)

神田區堅大工町六番地戶主平民德兵衛三男無職業

河内 德三郎

明治參年貳月九日生

右德三郎明治參拾貳年貳月四日戶主ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルニ付離籍セラル  
德三郎ト共ニ家ヲ去ル

德三郎養女

カマ

明治拾九年八月六日生

離籍人

河内 德兵衛

文化參年貳月四日生

右離籍明治參拾貳年貳月貳拾日届出同日受附  
第六號(戶一四九、民七五〇)

神田區堅大工町六番地戶主農

河内 德兵衛

文化參年貳月四日生

離籍ヲ爲シタル戶主

小石川區指ヶ谷町八番地戶主平民無職業

一家創立者

河内 德三郎

明治參年貳月九日生

右德三郎父德兵衛ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルカ爲メ明治參拾貳年貳月貳拾日離籍セラル  
一家創立

德三郎ノ家ニ入ル

德三郎養女

カマ

明治拾九年八月六日生

右離籍ニ因リ一家創立明治參拾貳年參月壹日届出同日受附⑩  
第七號(戸一五〇、民七五〇)

神田區錦町一丁目三番地戸主運送業川上秀雄(明治元年參月四日生)養子無職業

音吉

右音吉明治參拾壹年五月參日戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ト爲リタルニ付復籍ヲ拒絕セラレ

下谷區練堀町拾番地平民菓子商  
寄留地 神田區錦町三丁目一番地

拒絕者

音吉實父 下 井 儀 一

文化貳年四月七日生

右復籍拒絕明治參拾壹年拾貳月貳日届出同日受附⑩  
第八號(戸一五一、民七五〇)

下谷區練堀町拾番地戸主菓子商

拒絕者

下 井 儀 一

文化貳年四月七日生

一家創立者

神田區美土代町一丁目五番地戸主平民無職業

川 上 音 吉

右音吉父儀一ノ同意ヲ得スシテ養子ト爲リタルカ爲メ明治參拾壹年貳月貳日復籍ヲ拒絕セラレ  
明治九年八月七日生

離籍ニ因リ一家創立

右復籍拒絕ニ因レル一家創立明治參拾貳年壹月七日届出同日受附⑩  
第九號(戸一五一、民七四〇)

廢家ノ最終ノ戸主

神田區美土代町一丁目五番地戸主無職業

川 上 音 吉

一家創立者

神田區今川小路二丁目三番地戸主平民無職業

音吉妹 田 上 ナ ク

右ナク兄音吉明治參拾五年貳月五日廢家シテ他家ニ入りタルカ爲メ復籍スルコト能ハス  
明治拾壹年貳月參日生

離婚ニ因リ一家創立

右廢家ニ因ル一家創立明治參拾九年八月七日届出同日受附⑩

附錄第一號ノ十六

明治何年

本籍人

身分登記簿

廢家及ヒ絶家之部

東京市淺草區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名

職印

第一號(戶一五二)

廢家人

神田區美土代町一丁目五番地戶主平民無職業  
養子 川 上 音 吉

明治九年八月七日生

妻 方 夕

淺草區左衛門町六十五番地戶主酒商  
上 山 卓 一

明治元年貳月參日生

右音吉ノ入ルヘキ家ノ戶主

右廢家明治參拾五年貳月五日屆出同日受附

第二號(戶一五三)

淺草區左衛門河岸第六號地戶主無職業

絶家ノ最終ノ戶主

田 三 平

右三平家資相繼入ナキニ因リ明治參拾壹年九月六日絶家

天保參年六月四日生

一家創立者

淺草區三筋町三丁目一番地戶主平民藥種店

三次妻

明治元年貳月四日生

右絶家及ヒ一家創立明治參拾貳年八月八日屆出同日受附

明治九年拾月五日生

附錄第一號ノ十七

明治何年

本籍人 身分登記簿

分家及ヒ廢絶家再興之部

東京市芝區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一五四)

本家戶主

神奈川縣橫濱市伊勢町一番地戶主無職業

中 戶 市 兵 衛

分家戶主

芝區明舟町三十五番地戶主平民牛肉販賣營業

市兵衛弟 中 戶 市 三

明治元年參月貳日生

右母

右父神奈川縣橫濱市伊勢町二丁目一番地中戶市右衛門

市三妻

ハ タ カ

明治拾年五月四日生

右母亡

右父神奈川縣橫濱市扇町二丁目一番地草商松下高尾

右分家明治拾貳年壹月六日届出同日受附  
第二號(戶一五五)

淺草區左衛門河岸第六號地戶主無職業

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

右絕家再興明治拾貳年九月八日届出同日受附

絕家ノ最終ノ戶主

岡 田 三 平

右三平家督相續人ナキニ因リ明治元年九月六日絕家

絕家再興人

芝區日蔭町二丁目一番地戶主平民無職業

三平甥 岡 田 丹 次

明治拾年貳月六日生

附錄第一號ノ十八

明治何年

本籍人

身分登記簿

國籍得喪之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一五七)

夫

麴町區元園町一町自入番地戶主平民雜貨商

井口冷水

妻

獨國人 無職業

ヘル

千八百五拾八年九月貳拾六日生  
千六百六拾壹年五月參拾壹日生

右ヘルミ婚姻ニ因リ國籍ヲ取得ス

伯林身分取扱吏

婚姻證書作製者

ハウル、レン子

婚姻證書作製

千八百八拾九年拾月九日

右婚姻證書ノ原本明治參拾壹年拾貳月貳拾日外務大臣甲野乙郎發送同日受附  
第二號(戶一五七)

養父

麴町區永田町一町目六番地戶主平民官吏

寺山太郎

養母

明治元年壹月六日生

養子

英國人小學校教員

明治五年八月七日生

右マリ一縁組ニ因リ國籍ヲ取得ス

明治拾年六月九日生

右養子縁組明治參拾貳年六月七日届出同日受附  
第三號(戶一五八)

認知ニ因リ國籍ヲ取得シタル者

麴町區麴町九町目五番地戶主平民茶商飯口平三庶子男獨國人

カール

右母

獨國人

明治參拾年參月四日生

右私生子認知明治參拾貳年九月五日届出同日受附  
第四號(戶一六〇)

麴町區平河町二町目三番地平民無職業

河合アキ

右アキ佛國人アンリ、ベルナルト婚姻ヲ爲スニ因リ國籍喪失

明治參年貳月六日生

右國籍喪失明治參拾貳年拾壹月貳日届出同日受附

第一號欄外登記例

本籍人身分登記簿婚姻之部第三號參看

第二號欄外登記例

本籍人身分登記簿養子縁組之部第二十號參看  
第三號欄外登記例  
本籍人身分登記簿私生子認知之部第四號參看

附錄第一號ノ十九  
明治何年

本籍人  
身分登記簿  
氏名及七族稱變更ノ部

東京市牛込區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戶一六四)

牛込區矢來町六番地戶主平民湯屋營業

祖免ノ苗字湮滅ヲ憂ヒ川合氏ヲ廢シ山本氏ニ復ス明治參拾貳年拾貳月五日許可  
右氏ノ復舊明治參拾壹年拾貳月六日届出同日受附  
第二號(戶一六四)

山本又吉

明治六年八月九日生

牛込區早稻田町五十番地戶主爲右衛門長男平民育  
物商

本木長之助

明治元年七月六日生

同氏名ノ者アルニ因リ爲藏ヲ長之助ト稱ス明治參拾貳年拾貳月拾日許可  
右名ノ改稱明治參拾壹年拾貳月拾壹日届出同日受附  
第三號(戶一六五)

牛込區山伏町三番地戶主華族官吏(舊士族)

新田義近

明治元年貳月九日生

右義近明治參拾貳年壹月八日ノ辭令ヲ以テ華族ニ列セラル  
右族稱變更明治參拾貳年壹月九日届出同日受附

附錄第一號ノ二十

明治何年

本籍人  
身分登記簿  
身分登記變更之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶一六七、一六八)

麴町區麴町一丁目一番地戶主平民吳服商飯尾太郎  
同人妻カシ

長男 一郎

明治參拾貳年參月五日右一郎出生登記中出生ノ時ノ行ニ午後五時トアルヲ午後六時ト變更シ明  
治參拾貳年五月四日許可ノ裁判確定

申請人

飯尾太郎  
明治元年四月貳日生

右出生登記變更明治參拾貳年五月五日申請同日受附

附錄第一號ノ二十一

非本籍人  
身分登記簿  
出生之部

東京市芝區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶六八、六九ノ一、七二ノ一)

神奈川縣橫濱市吉田町一丁目五番地戶主士族官吏  
寄留地 東京市芝區巴町二丁目三番地

父 龜田 安之助



母  
長男  
道太郎

出生ノ時 明治參拾貳年參月四日午後六時拾分  
出生ノ場所 芝區巴町二丁目三番地

届出人 龜田 安之助  
明治元年六月五日生

右出生明治參拾貳年參月五日届出同日受附  
第二號(戶七五)

男 玉村 時藏  
推定 明治參拾貳年五月生

發見ノ時 明治參拾貳年五月六日午前五時拾分  
發見ノ場所 芝區日陸町一丁目六番地道路

芝區明舟町六番地 育兒院  
明治參拾貳年五月七日引受

芝區日陸町一丁目六番地戶主平民青物商  
發見者 屋井五郎  
明治元年六月五日生

右棄兒發見明治參拾貳年五月七日届出同日受附

附錄第一號ノ二十二  
明治何年  
非本籍人  
身分登記簿  
死亡之部

東京市牛込區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(戶二三三ノ一、二、二六ノ一)

本籍不明

死亡ノ時 明治參拾貳年六月六日午後拾時

男 伊賀 去就  
推定 貳拾五六歲

死亡ノ場所 牛込區神樂坂道路

牛込警察署長警視

報告者 上村三平

右死亡報告明治參拾貳年六月七日發送同日受附

第一號欄外登記例

伊賀去就ノ本籍ハ麴町區三番町九番地ニ在リ明治五年參月拾日生ナル旨牛込警察署長上村三平ヨリ明治參拾貳年六月九日報告發送同日受附

備考

- 一 本籍地ヲ記載スルニハ其地名ノ上ニ本籍地ナル文字ヲ記セス寄留地若クハ所在地又ハ住所ヲ記載スルトキニ限リ其旨ヲ記ス
- 二 本籍寄留地若クハ所在地又ハ住所ヲ記載スルニ當リ其戶籍役場所在地ノ府縣名(區ヲ設ケアル市ニ於テハ市名)ハ之ヲ略ス
- 三 同一ノ登記番號内ニ登記ヲ爲スニ當リ既ニ他ノ資格ヲ以テ届出人ノ本籍地、族稱、職業及ヒ生年月日ヲ記載シタルトキハ届出人ヲシテ之ヲ記載スヘキ場合ニ前ニ記載シタル事項ヲ略ス
- 四 父母ハ氏及ヒ族稱、本籍地ニ同フスルヲ以テ常例トセルニ因リ之ヲ異ニスル場合ノ外母ニ付テハ之ヲ記載セス又無職業ナルトキハ別段無職業ト記載セス
- 戶主ト家族トノ間ニ在リテハ戶主ヲ家族ノ肩書トスルトキニ限リ戶主ノ氏ヲ略シ戶主ト家族トナ書キ下ストキハ家族ノ氏ヲ略ス又族稱、職業、本籍地ヲ記載スルノ必要アル場合ニハ家族ニ付テハ其同一事項ニ限リ之ヲ略ス

- 父母戶主ノ家ニ本籍ヲ有スルトキハ其父母ニ付戶主ト同一事項ヲ略ス
- 何レノ場合ト雖モ省略ノ爲メ錯雜ヲ招クノ虞アルトキハ同一事項ヲモ記載ス
- 五 登記番號ノ下ニ例ヘハ(戶六八、六九ノ三、民七三五ノ三)トアルハ戶籍法第六十八條第六十九條第三項民法第七百三十五條第三項ヲ略セルモノニシテ登記例毎ニ參考ノ爲メ關係ノ正條ヲ示シタルニ過ギス
- 六 欄外ニ登記取消ノ登記ヲ爲シタルトキハ原登記ニ朱線ヲ交又スルモノトス

附錄第二號

戶籍簿

何市何町戶籍役場

表 (縦 八 寸) (横 五 寸)

本籍地	麴町四丁目六番地	前主	飯田正義
寄留地	麴町區元園町壹丁目參番地 朱	族稱	士族 華族
出生	明治六年八月拾日 華族ニ列セラレ同月拾七日	死亡	飯田正義 長男
同日受附	同日受附 明治六年拾月六日 本籍變更届		



出向日芝麻戸籍定兩野丙郎受附同日届書及入籍 通知書送同月拾九日受附除籍⑤		弟	
出生 明治九拾參年七月五日 神田區錦町壹丁目四番地 雲井時直二女婚姻届出同日受附入籍⑥	父 雲井時直 ムメ 二女	母 二男三郎妻	正高
出生 明治七拾貳年五月六日	二姊		

裏

出生 明治九拾參年七月五日 神田區錦町壹丁目四番地 雲井時直二女婚姻届出同日受附入籍⑥		父 雲井時直 ムメ 二女		母 二男三郎妻		正高	
出生 明治七拾貳年五月六日		二姊					

十四	出生 明治九拾參年七月五日 神田區錦町壹丁目四番地 雲井時直二女婚姻届出同日受附入籍⑥	父 雲井時直 ムメ 二女	母 二男三郎妻	正高	
十三	出生 明治七拾貳年五月六日	二姊			

附錄第三號

戸籍記載例

- 〔備考〕本簿式ニ示ス所ノ母、長女及ヒ弟ノ三欄ニハ朱線ヲ交又スルモノ科ス
- 一 明治九拾參年六月既拾壹日出生届出同日受附⑤
  - 二 明治九拾參年六月既拾貳日出生届出同日子丑縣實那郡辰巳村戸籍吏甲野乙郎受附同日届書發送同月貳拾五日受附⑥
  - 三 明治九拾參年七月參日發見届出同日受附⑥
  - 四 明治九拾參年七月參日辰巳市午未町參番地丙野丙吉ニ引渡⑥
  - 五 明治九拾參年拾月貳日申酉市我亥町四番地丁野丁助ニ引渡替同月參日届出同日受附⑥

六 明治参拾壹年拾月拾八日父子丑縣寅卯郡辰巳村百番地戊川戊現出引取拾月貳拾日登記取消申請同日受附

七 明治参拾壹年七月七日嫡出子否認ノ裁判確定同月拾日届出登記變更申請同日受附  
嫡出子タル身分取得

八 明治参拾壹年七月參日父甲母乙婚姻ニ因リ嫡出子タル身分取得届出同日受附  
私生子認知

九 明治参拾壹年七月壹日子丑縣寅卯郡辰巳村五番地甲野甲私生子認知届出同日受附入籍  
十 明治参拾壹年七月壹日父辰市午未町参番地丙野丙吉認知届出同日辰市午未町戸籍吏戊野戊一耶受附同日届書及ヒ入籍通知書發送月九日受附除籍

〔備考〕第九記載例ハ他家ノ戸主ノ私生子ヲ認知シテ之ヲ入籍セシメタルノ例ヲ示シ第十記載例ハ他家ノ戸主カ私生子ヲ認知シタル旨ヲ其戸主ノ本籍地ニ届出テ其戸籍吏ニ届書及ヒ入籍通知書ヲ發送シ其戸籍吏ハ受附ケタルニ因リ私生子ヲ除籍シタルノ例ヲ示ス  
養子縁組

十一 明治参拾壹年六月四日子丑村四番地丁野丁耶二女養子縁組届出同日受附入籍

十二 明治参拾壹年六月四日子丑村七番地戊野戊五耶ハ養子縁組届出同日受附除籍

十三 明治参拾壹年六月五日寅卯縣辰巳郡午未村六番地乙野乙耶甥養子縁組届出同日子丑市戸籍吏丙野丙耶受附同日六月八日届書發送同月八日受附入籍

十四 明治参拾壹年六月五日午未區申酉町七番地甲野甲耶ハ養子縁組届出同日子丑市戸籍吏丙野丙耶受附同日六月九日届書發送同月九日受附除籍

十五 明治参拾壹年六月六日子丑府寅卯郡辰巳村九番地乙野乙耶弟養子縁組届出同日辰巳村戸籍吏丙野丙耶受附同月八日届書發送同月拾日受附入籍

十六 明治参拾壹年六月六日夫乙四耶ト共ニ養子縁組入籍

十七 明治参拾壹年六月六日辰巳縣午未郡申酉村拾番地甲野甲耶ハ養子縁組届出同月七日受附除籍

十八 明治参拾壹年六月拾參日縁組無効ニ因リ登記取消申請同日受附  
十九 明治参拾壹年六月拾參日縁組無効ニ因リ登記取消申請同日辰巳市戸籍吏丙野丙耶受附同日申請書發送六月拾九日受附

二十 明治参拾壹年六月拾四日縁組取消ノ裁判確定同月貳拾九日登記取消申請同日受附

二十一 明治参拾壹年六月拾四日縁組取消ノ裁判確定同月貳拾九日登記取消申請同日子丑縣寅卯郡辰巳町戸籍吏丙野丙耶受附同日申請書發送七月貳日受附

離縁

二十二 明治参拾壹年八月參日協議離縁實家復籍届出同日受附除籍

二十三 明治参拾壹年八月參日子丑村九番地甲野甲耶養子協議離縁届出同日受附入籍

二十四 明治参拾壹年八月四日夫乙四耶ト共ニ協議離縁實家復籍除籍

二十五 明治参拾壹年八月四日子丑縣寅卯郡辰巳村二番地乙野乙耶養子協議離縁届出同日辰巳村戸籍吏丙野丙耶受附同月六日届書發送同月九日受附入籍

二十六 明治參拾壹年八月四日夫乙因取同共女儀議離縁入籍  
 二十七 明治參拾壹年八月七日離縁之裁判確定同月拾日實家復籍屆出同日受附除籍  
 二十八 明治參拾壹年八月七日夫乙與妻甲子丑區一番地甲野甲郎養子離縁裁判確定同月拾日屆  
 二母同日子丑野戶籍東丙野野郎受附同日屆書發送八月拾日受附入籍  
 二十九 明治參拾壹年八月拾日離縁之裁判確定同月拾四日離縁及實家廢絶ノ旨屆出同日受附  
 離縁

三十 明治參拾壹年七月妻乙到丑縣前野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十一 明治參拾壹年七月妻乙到丑縣前野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十二 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十三 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十六 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十七 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十八 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十九 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十一 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十二 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十三 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍

三十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十六 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十七 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十八 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十九 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十一 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十二 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十三 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍

三十六 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十七 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十八 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 三十九 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十一 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十二 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十三 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍  
 四十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附入籍

三十五 明治參拾壹年七月拾日後見人子丑野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 三十六 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 三十七 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 三十八 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 三十九 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十一 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十二 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十三 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十四 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附  
 四十五 明治參拾壹年八月五日野野郎野乙郎姊婚姻屆出同日受附

四十六 明治參拾壹年拾月拾日午前申時死亡家督相續人胎兒ナル旨同月貳拾日届出同日受附  
 四十七 明治參拾壹年拾貳月拾六日家督相續人タル胎兒死體ニテ分娩同月貳拾六日登記取消申請同日受附  
 四十八 家督相續人廢除ノ裁判確定同月五日届出同日受附  
 四十九 明治參拾壹年八月拾壹日廢除取消ノ裁判確定同月貳拾六日登記取消申請同日受附  
 五十 明治參拾壹年拾月四日子丑縣寅卯郡辰巳町五番地甲野甲郎男入家届出同日受附入籍  
 五十一 明治參拾壹年拾月四日辰巳市午未町二番地乙野乙郎方入家届出同日辰巳市戶籍吏丙野丙郎受附同月五日届書及入籍通知書發送同月九日受附除籍

離 籍

五十二 明治參拾壹年九月拾日離籍届出同日受附除籍  
 五十三 明治參拾壹年九月拾日夫甲郎離籍セラレ共ニ家ヲ去リタルニ因リ除籍  
 五十四 明治參拾壹年拾月九日子丑市寅卯町二番地甲野甲郎ヨリ離籍セラレタルニ因リ一家創立三届出同日受附  
 五十五 明治參拾壹年拾月九日夫甲郎一家ヲ創立シタルニ因リ入籍  
 五十六 明治參拾壹年拾壹月拾參日戶主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ因リ同月拾五日復籍

拒絕届出同日受附

五十七 明治參拾壹年拾貳月拾七日子丑市寅卯町一番地甲野甲郎ヨリ復籍ヲ拒絕セラレタルニ因リ一家創立届出同日受附  
 五十八 明治參拾壹年拾貳月七日夫甲郎一家ヲ創立シタルニ因リ入籍  
 五十九 明治參拾壹年八月拾日廢家届出同日受附  
 六十 明治參拾壹年八月拾六日甲區裁判所ノ許可ヲ得テ絶家トス  
 六十一 明治參拾壹年拾月九日戶主死亡其家絶家ト爲リタルニ因リ同月拾參日一家創立届出同日受附  
 六十二 子丑村四番地甲野甲郎方ヨリ分家明治參拾壹年拾月拾日届出同日受附  
 六十三 明治參拾壹年拾月拾日父甲平分家シタルニ因リ入籍  
 六十四 明治參拾壹年拾月拾日子丑村百十番地へ分家届出同日受附除籍  
 六十五 明治參拾壹年拾月拾日子丑市寅卯町七番地へ分家届出同日寅卯町戶籍吏丙野丙郎受附同日届書及入籍通知書發送同月拾五日受附除籍  
 六十六 子丑縣寅卯郡辰巳町八番地甲野甲郎叔父明治參拾壹年拾壹月拾壹日廢家乙村氏再興届出同日受附  
 六十七 明治參拾壹年拾壹月拾壹日辰巳縣午未郡中西村二十九番地ニ於テ絶家乙村氏再興届出同日





明治 年 月 日

附錄第六號

一何々届

何通

右明治何年何月何日受理シタルコトヲ證明ス

明治 年 月 日

何市町村戸籍吏氏名 職印

附錄第七號

届出人氏名宛

催告狀

本籍地又ハ住所、居所

届出又ハ申請義務者 氏 名

右氏名ハ本職ニ對シ來ル何月何日迄ニ何々ノ届出又ハ申請ヲ爲スヘキコトヲ催告ス

明治 年 月 日

何市町村戸籍吏氏名 職印

附錄第八號

第二催告狀

本籍地又ハ住所、居所

届出又ハ申請義務者 氏 名

右氏名ハ何年何月何日日本職カ發シタル何々届出又ハ申請ヲ爲スヘキ催告ニ應セサルヲ以テ更ニ來ル何月何日迄ニ右届出ヲ爲スヘキコトヲ催告ス

明治 年 月 日

何市町村戸籍吏氏名 職印

戸籍法第二條ノ規定ニ依リ區長ヲ以テ戸籍吏ト爲ス

ノ件 (明治三十一年七月司法省令第十二號)

東京市京都市及ヒ大阪市ノ各區ニ於テハ區長ヲ以テ戸籍吏トス

戸籍法ノ規定ニ依リ納付スル手数料ノ金額ヲ定ムル

ノ件 (明治三十一年七月司法省令第十三號)

戸籍法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ノ金額左ノ通相定ム

第一條 身分登記簿ノ閲覧ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記簿又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付キ金拾錢ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ一件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手数料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ場合ニ於タル手数料ハ登記印紙請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

### 處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタル者戶籍吏ニ報告方ノ件

(明治三十一年八月司法省訓令第六號)

既決犯罪事件ニ關シテハ明治二十五年(二月)當省參(刑甲)第四一號ノ乙訓令ニ基キ檢事局ヨリ犯人本籍地ノ戶籍吏ニ通知ヲ爲スヘキヲ以テ處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタルモノニ付キテハ此通知ヲ以テ戶籍法第六十六條但書ノ報告ト看做スヘシ

【參照】 司法省訓令參(刑甲)第四十一號ノ乙抄錄

自今重罪、輕罪ノ刑ノ言渡確定シタルトキハ刑ノ執行ヲ爲スヘキ裁判所檢事局ハ郵便端書、別紙第一雛形ニ依リ氏名其他ノ事項ヲ記載シ犯人本籍地管轄市、區役所又ハ町、村役場ヘ通知セシム可シ若シ右管轄市、區役所又ハ町、村役場ヨリ戶籍簿等ト相違ノ廉回報アリタルトキハ調査ノ上其旨當省ヘ申報ス可シ

只 明治十四年丁第三十三號達ニ從ヒ犯人本籍ノ裁判所檢事ニ送致ス可キ既決犯罪表ハ別紙第二雛形ニ依リ之ヲ取扱フ可シ但同達文中「其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戶長ニ通知シ」ノ十六字ヲ削除ス

右訓令スル日

別紙雛形略ス

本訓令ハ明治三十一年八月二十一日付司法省訓令第六號ニ依リ施行スル

### 身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程

其 身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程左ノ通相定ム

身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程左ノ通相定ム

身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程

第一條 身分登記及寄留ニ關スル戶籍役場ノ帳簿及書類ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ保存スヘシ

一 除籍簿 五十年

二 戶籍ニ關スル届書、許可書及ハ附屬書類 十年

三 受附帳 三年

四 請求、告知、催告又ハ通知ニ關スル帳簿及書類 三年

第二條 戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ戶籍ヲ改製シタル場合ニ於テハ原戶籍ヲ五十年間保存スヘシ

第三條 出入寄留ニ關スル届書、除籍帳簿及ハ附屬書類ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第四條 戶籍法第三十八條第一項ニ依リ戶籍役場ヨリ區裁判所ニ送付シタル書類ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第五條 地方裁判所ニ保存スル戶籍ノ副本ハ其正本カ家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ抹消セラル又ハ戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ改製セラルルマテ之ヲ保存スヘシ

第六條 第一條第三條及第七條ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算シ第  
二條ノ原戶籍ノ保存期間ハ改製終了ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第七條 區裁判所判事、戶籍吏又ハ市、區、町村長(市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏  
員)カ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作り地方裁判所長ノ  
認可ヲ受クヘシ但戶籍吏又ハ市、區、町村長カ認可ヲ請フトキハ監督區裁判所ヲ經由スヘシ

第八條 後見人ニ關スル戶籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ハ當該年度ノ翌年ヨリ五十年間之ヲ保存ス  
ヘシ

第九條 登記目錄ハ當該年度ノ翌年ヨリ三十年間之ヲ保存スヘシ

第十條 區裁判所ニ於テ戶籍法施行ノ際郡役所等ヨリ引繼テ受ケタル戶籍ニ關スル屆書ハ戶籍法  
施行前ニ編製シタル戶籍カ家督相續、廢絕家其他ノ事由ニ因リ抹消セラレ又ハ戶籍法第二百  
十一條第一項ニ依リ改製セララルマテ之ヲ保存スヘシ

第十一條 第一條第二條及ヒ第五條乃至第七條ノ規定ハ戶籍法施行前ノ除籍簿、原戶籍簿、戶籍ノ  
副本其他ノ帳簿及ヒ書類ニ之ヲ準用ス

第二章 族 籍

非藏人北面舊官人執次使番仕丁等ヲ廢シ士族「卒」ト改  
メ宮華族三代相恩ノ士ヲ家士族ニ加フ (明治三年十月布告)

一 非藏人北面舊官人執次使番仕丁等ノ名稱ヲ廢シ郡士族「卒」ト被改地方官官屬被仰付候事  
一 宮華族三代相恩ノ家士族ノ中へ御召加地方官官屬被仰付候事 (明治五年五月布告第二十九號)

郷土「卒」以テ士族ニ入籍ス (明治五年二月布告第四十四號)

舊來郷土ト稱シ家筋由緒有之候者ハ士族ニ入籍可被仰付候條取調書ヲ以テ大藏省へ可伺出申  
二代以上ノ卒ヲ士族ニ加ヘ一代抱シ平民ニ復ス (明治五年五月布告第二十九號)

各府縣官屬奉内從前番代ノ節抱替等ノ稱ヲ以テ其俸等へ祿高ヲ給與シ自然世襲ノ姿ニ相成居候  
分ハ自合士族ニ可被仰付候條取調書ヲ以テ大藏省へ可伺出家祿ノ儀ハ從前ノ通可相心得事但新規一  
代限抱シ輩ハ復籍セシメ給祿ハ是迄ノ通可遣事 (明治五年五月布告第二十九號)

僧尼族籍編入方 (明治七年七月布告第七十四號)

今般華族分家候者ハ總テ平民籍ニ編入相成候ニ付本年一月第八號僧尼族籍編入ノ布告自今左ノ通  
更定候條此旨僧侶ハ布告スヘキ事  
一 僧尼ノ種族籍被相定候條各自其原籍ニ復スヘキ事  
一 原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現在地へ別ニ本籍相定若シ現在地ノ外ハ本籍相定度望  
ノ者ハ一旦現在地へ定籍ノ上其地ヨリ望ノ地へ送籍スヘシ但別ニ本籍相定候者ハ元身分ニ不  
一 拘總テ平民籍タルヘキ事

- 一 眞宗（維新以來華族ニ列セラレシ者ヲ除クノ外）竝ニ舊修驗等世襲ノ者モ一般平民タルヘキ事
- 一 本末寺共其任職タル者宗教事務管理ノ儀一般職分同様タルヘキ事但一寺住職ノ者ハ平民タリ共總テ身分取扱士族ニ準シ候儀ハ從前ノ通タルヘキ事
- 一 戶籍法中右等ニ紙觸ノ廉ハ總テ廢シ候事

**僧尼定籍ニ付テノ心得方**（明治八年十一月內務省達乙第百五十一號）

僧尼ノ定籍ノ儀ニ付昨七年第七十四號ヲ以テ公布相成候處各自原籍ニ復スル分ハ格別現在地ヘ本籍ヲ定ムルニ至テハ自然各地方區區ノ所分ニ相涉リ候テハ不都合ニ付左ノ通相心得速ニ可致編籍此旨僧尼ヘ布達スヘキ事

- 一 原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現今住所ノ區内ヘ別ニ本籍可相定尤本籍ヲ定ムルニ付更ニ土地及ヒ家屋ヲ設クルニ及ハス現住地ノ區戶長ハ申立其區内（村町）ヘ定籍スヘシ若シ現住地ノ區内（村町）ノ外ヘ本籍ヲ定メ度望ノ者ハ一旦前條ノ如ク定籍ノ上其地ヨリ望ノ地ヘ送籍スヘキ事但別ニ本籍ヲ定ムル者身分ノ儀ハ昨七年第七十四號公布ノ通タルヘキ事

**僧尼寺院ニ住居ヲ許ス**（明治九年六月教部省達書第二十二號）

僧尼編籍ノ件昨八年（十一月）內務省乙第百五十一號達書ニ據リ各自本籍被相定候上ハ住職中其寺院ヘ住居ノ儀總テ從前ノ通可相心得答ニ付此旨寺院ヘ可布達事

**第三章 氏名**

**一人一名タルヘキ事**（明治五年五月布告第百四十九號）

從來通稱名乘兩様相用來候置自今一名タルヘキ事

**平民苗字ヲ設クル事**（明治八年二月布告第二十二號）

平民苗字被差許候旨明治三年布告候處自今必苗字相唱可申尤祖先以來苗字不分明ノ向ハ新タニ苗字ヲ設ケ候様可致此旨布告候事

**僧侶苗字ヲ設ク**（明治五年九月布告第百六十五號）

自今僧侶苗字相設住職中ノ者ハ其寺住職某氏名ト可相稱事但苗字相設候ハ管轄廳ヘ可届出事

**御歴代ノ御諱竝御名ノ文字ヲ名乗ルコトノ解禁**

（明治六年三月布告第百十八號）

御歴代御諱竝御名ノ文字自今人民一般相名乘候儀不及憚事但熟字ノ儘相川候儀ハ不相成候事

**苗字名竝屋號共改ムルヲ禁ス**（明治五年八月布告第百三十五號）

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名竝屋號共改正不相成候事但同苗同名等ニテ無餘儀差支有之者ハ

管轄廳へ改名可願出申（明治九年第五號布告ヲ以テ「同名」ノ下ニ「等」ヲ加ヘ「管轄廳」ノ下ニ「改名」ノ二字ヲ加フ）

### 第四章 年 齡

#### 年齡計算ニ關スル件（明治三十五年十二月法律第五十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齡計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
年齡ノ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百三十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕明治六年（二月）第三十六號布告

自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相數事

但舊曆中ノ儀ハ干支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二月ヲ以テ十年ト可致事

#### 同上法律ヲ臺灣ニ施行ノ件（明治三十六年二月勅令第十四號）

朕明治三十五年法律第五十號ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
明治三十五年法律第五十號ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

#### 第五章 寄 留

##### 寄留ノ届出ニ關スル件（明治五年一月第四號）

寄留者ノ事、凡寄留スル者ノ届書ハ官員神官華士族ニ奉修尼苗神官ハ當人「兵隊ハ隊長」平民ハ口主備主請人ノ内ニテ證明シ且寄留ノ地ニ於テ一月ヲ為セシ者ハ其管下ノ者同様届書ハ屋敷番號ヲ記シ其區月長ハ屬分シテ一月長ハ總領ノ届書ヲ集メ或ハ如ク寄留總計ヲ作リ其屬ハ出シ其應之ヲ受ケ寄留表ヘ書載ス可キ事

##### 出生死去出入等届出方及寄留者届出方

第一條（明治三十一年六月法律第十號戶籍法第二百二十二條ノ規定ニ依リ消滅ス）

第二條（同上）

第三條（同上）

第四條（同上）

第五條（同上）

第六條 他府縣又ハ他郡市區町村ニ寄留シタルトキハ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地者クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理ス



第十六條 (同上)

第十七條 (同上)

第十八條 (同上)

第十九條 (同上)

第二十條 他府縣又ハ他都市區他町村ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其

登記ハ編製ノ例ニ依ル (明治二十九年十一月内務省令第十一號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第二十一條 入寄留簿ハ左ノ三種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯ヲ爲ス者ト然ラサ

ル者ト去區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲ササル者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨ケナシ (同上)

第二十二條 他府縣大入寄留簿

一 他都市區大入寄留簿

二 他町村大入寄留簿

第二十三條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別業

ヲ爲ス者ハ便宜ノチ除籍簿ニ移スヘシ

第二十三條 他府縣又ハ他都市區他町村ヘ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出寄留簿ニ列記ス

ル (同上)

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ

第二十五條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ

寄留届寄留者復歸届取扱方 (明治二十九年六月内務省令第四號)

明治十九年(九月)内務省令第十九號ニ依ル寄留届寄留者復歸届取扱方左ノ通定ム

一 入寄留ノ届出アルトキハ市長(東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長以下同シ) 町村長ハ戶籍

取扱手續第二十條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ年月日登記簿ノ旨ヲ記入シ其職印ヲ押捺シ直ニ

之ヲ寄留人本籍地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一 出寄留ノ届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十三條ノ手續ヲ了シタル後前項寄留地

ニヨリ發送ノ届書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セザルトキハ其ノ寄留届書ニ前項ノ如ク記入

捺印シ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一 寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ手續ヲ了リタル

後其届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

華族戶籍ニ關シ宮内省ニ出願方省略ノ件

(明治二十九年宮内省達乙第三號)

華族戶籍ニ關シ從來本省ノ許可ヲ經タルモノノ内養子、婚姻ヲ除クノ外ハ自今願ニ及ハス(明治

三十一年七月宮内省達乙第一號ヲ以テ「養子」ノ上ニ存セシ「家督相續」ノ四字ヲ削ル)

但從前ノ達令ニシテ本文ニ「概關スルモノ」ハ總テ廢止ス

華族戶籍ノ異動ニ關スル件 (明治二十九年十月宮内省達乙第四號)

華族戶籍ノ異動ハ總テ當該廳ニ於テ登記ヲ了スルハ後當省ヘ届出スヘシ

臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出生死亡等ニ關スル





各地方寄留ノ者諸願何屆等自今其寄留地ノ管廳へ可届出此旨布告候事但事柄ニ依リ本管廳へ差出候儀ハ其便宜ニ任スルキ事

第八編 公證人

公證人規則 (明治十九年八月法律第二號)

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セヨム

第一章 公證人ノ職權及試験

第二章 公證人ノ選任及試験

第三章 公證人ノ職務

第四章 公證人ノ報酬及旅費

第五章 公證人ノ懲罰

公證人規則

第一章 公證人ノ職權及試験

第二章 公證人ノ選任及試験

第三章 公證人ノ職務

第四章 公證人ノ報酬及旅費

第五章 公證人ノ懲罰

公證人規則

第一章 公證人ノ職權及試験

第二章 公證人ノ選任及試験

第三章 公證人ノ職務

第四章 公證人ノ報酬及旅費

第五章 公證人ノ懲罰

公證人規則

第一章 公證人ノ職權及試験

第二章 公證人ノ選任及試験

第三章 公證人ノ職務

第四章 公證人ノ報酬及旅費

第五章 公證人ノ懲罰

公證人規則

第一章 公證人ノ職權及試験

第二章 公證人ノ選任及試験

第三章 公證人ノ職務

第四章 公證人ノ報酬及旅費

第五章 公證人ノ懲罰

公證人規則

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄「始審裁判所及治安裁判所」ニ差出スヘシ

前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セズ

第十一條 公證人巳ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣公證人ニ代理ヲ囑シ管轄「始審裁判所」ニ其旨ヲ届出ツ可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及ヒ謄本ノ用紙ハ某「始審裁判所」管内公證人役場ト刻シタル紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ  
第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 現出帳 日授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受ケル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スコカラズ

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可ラス

第十八條 第二章 公證人ノ選任及試験  
第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄「始審裁判所」ニ差入ルル事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代言人ニハ此條件ヲ要セズ

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ズ  
第一 公權剝奪者クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 自身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ二箇月前ニ告示ス可シ  
第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ「始審裁判所」ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時

之ヲ命ス

第二十三條 試驗ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試驗及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄「始審裁判所」若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出スヘシ但裁判官檢察官タラシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書「代言人」ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試驗ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試驗ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得

第二十七條 試驗及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラズ面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲ケテ者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人又ハ親屬雇人又ハ公證人ノ學生

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三 囑託人接見人ナルトキハ接見人タルヲ證明書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ作ルノ場所及其年月日若シ場所ヲ記セズ又ハ年月日ヲ記入タ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平場ノ語ヲ用テ字聲明瞭ナルヲ要ス

接續スヘキ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字竝ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人竝ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙未明カニ

認得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人竝ニ

之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄「始審裁判所」若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出スヘシ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書「代官人」ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作成シハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラズ面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知其面識アル丁年者二人以正テ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲ク者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ學生

第三十條 第二十條ニ掲ケタル者

第三十一條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三 囑託人接見人ナルトキハ接見人タルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ作成シ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ヲ記入シ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十二條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用テ字數明瞭ナルヲ要ス

接續スヘキ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾兩軒萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十三條 度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テ之ヲ用フルコトヲ得

第三十四條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙未同カニ

取得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ

關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ效ヲ有セス  
 第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ其「治安裁判所」管内某地住居ト肩書ス可シ  
 公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス  
 若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ「代言人」ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連續ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連續スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本

ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ效ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ前面ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄「始審裁判所」ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ於テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連續ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲ

ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ效ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ前面ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄「始審裁判所」ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ於テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連續ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲ

シテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄「始審裁判所」ノ認可ヲ經テ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ因リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其效ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄「始審裁判所」ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ヌ之ヲ渡スト雖モ其效ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄「始審裁判所」ヘ願出ツ可シ管轄「始審裁判所」ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スコキコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其效力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ請求ニ應ジ之ヲ渡スコシ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄「始審裁判所」ノ命令ニ依リ關係人ノ請求ニ應ジタルトキハ其命令書ハ原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄「始審裁判所」ニ差出シ綴目合冊ニ其所長ノ官印ヲ受テ可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ條件ヲ記入スヘシ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失職或職權轉讓又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ヲ命ゼレザル場合又ハ公證人ノ場合ニ於テハ管轄「始審裁判所」ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ヲ命ズルニ必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄「始審裁判所」ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲スコシ

第五十九條 公證人免職辭職轉讓又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任



第三十二條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十三條ノ第一項ニ違ヒタル時  
第三十四條ノ第一項ニ違ヒテ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ原書ヲ爲ササリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七千四條 左ノ違犯ヲ二回以上五回以下ノ過科ニ處ス

第七千三條ニ違ヒタル時

第四千四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五回以上三回以下ノ過科ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ二月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十三條ノ第一項ニ違ヒタル時  
第三十四條ノ第一項ニ違ヒテ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ原書ヲ爲ササリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七千四條 左ノ違犯ヲ二回以上五回以下ノ過科ニ處ス

第七千三條ニ違ヒタル時

第四千四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五回以上三回以下ノ過科ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ二月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時



第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ效力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及モテ其後モ止マズキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ此ヲ賠償ス可シ

### 公證人規則施行條例 (明治十九年八月司法省令甲第二號)

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ各區裁判所管内ニ二十名以下ヲ置ク但東京區裁判所管内ニ於テハ三十名以下大阪區裁判所管内ニ於テハ二十五名以下ヲ置クコトアルヘシ (明治二十九年十二月司法省令第五十七號及三十八年五月同省令第十六號ヲ以テ本條ヲ改ム)

若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可ヘシ

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居キテ欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ「始審裁判所」ニ差出し控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請テ可シ

「始審裁判所」長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居承認可セザルトキハ直チニ其住居不可キ町村ヲ指定スル第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ住居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ハ役場ニハ公證人兼役場ト記セル表札ヲ掲ゲ可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケテ欲スル者ハ試験願書ヲ添へ試験期日ノ告示アリタルヨリ試験期日ニ前月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ「始審裁判所」ニ差出ス可シ

第六條 試験願書及履歴書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ同意書ヲ受ケ可シ

第七條 試験委員ハ筆記試験ク答按テ調査シ其合格不合格ヲ決定シ其後口述試験ヲ行フ可シ

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判斷ニ決スルモノトス

第九條 試験委員ハ口述試験ク大略及試験全體ノ結果ヲ記錄シ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル「始審裁判所」若クハ控訴院ノ

長ニ差出ス可シ

「始審裁判所」ニ於テ試験ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人タラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官認學位証卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ  
試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ願書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願書ヲ受ケタル「始審裁判所」ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出シタルトキハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及「始審裁判所」ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及「始審裁判所」ニ於テハ公證人各該地ニ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及住地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書日本勸業銀行發行勸業債券及貯蓄債券日本興業銀行發行債券等久ハ日本銀行株券ヲ管轄「始審裁判所」

三納ム可シ(三三二年二月司法省令第四號、三七年二月同省第三號及三九年四月同省令第五號ヲ以テ本條中改正)

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ  
東京及大阪 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ  
人口貳拾萬以上アル受持區 金四百圓

人口貳拾萬未満拾萬以上アル受持區 金三百圓

人口拾萬未満アル受持區 金二百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリテ雖モ概シテ完納シタルモノトシテ之ヲ増減ス  
第十九條 公證人ハ其職務ヲ行フ可キ地ノ管轄「始審裁判所」ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ズ  
公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルトキハ公證人規則第二十條第二項ニ依リ司法大臣其職務ヲ罷免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトシ  
第二十一條 過料賠償其ノ他事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルトキハ管轄「始審裁判所」長ハ之ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命スルヘシ

公證人保證金ヲ補充スルマテ「始審裁判所」長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ  
公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ「始審裁判所」長ハ控訴院ヲ

經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ  
第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ  
餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷メタルトキハ身元保證金ヲ還付スヘシ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄「始審裁判所」ハ控訴院ヲ經  
由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ「始審裁判所」及控訴院ハ其旨  
ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及「治罪法」ノ例ヲ用ヒス  
第二十七條 公證人試驗願書式履歴書式及公證人願書式ハ左ノ如シ  
(書式ハ之ヲ參ス)

### 抗告手續

(明治十九年十一月司法省令甲第三號)

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

#### 抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ  
差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且關

係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄「始審裁判所」ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公證人ハ若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄「始審裁判所」ニ送致セザルトキ  
又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄「始審裁判所」ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

「始審裁判所」ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ  
求ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受タルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取リタル管轄「始審裁判所」ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

「始審裁判所」ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムル  
コトヲ得

第六條 「始審裁判所」ハ抗告ノ判定書ヲ管轄「治安裁判所」ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及  
ヒ抗告者ニ送致セシム可シ

「始審裁判所」ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處  
分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日以内ニ其處分ヲ爲シタル  
管轄「始審裁判所」ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト  
認ムルトキハ第二條ノ期限内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ノ處分ヲ爲シタル「始審裁判所」ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ、  
 控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル「始審裁判所」ハ其判定ニ依リ  
 處分ヲ更正ス可シ  
 第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

**公證規則** (明治三十六年十二月律令第十二號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル公證規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

**公證規則**

第一條 民事ニ關スル公正證書ノ作成ハ當事者ノ申請ニ依リ地方法院及其ノ出張所ノ判官之ヲ取  
 扱フ  
 第二條 本令ニ依リ作成シタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ且民事訴訟法第五百五十九條第五號  
 但書ノ作成要件ヲ具備シタルモノハ同號債務名義ト同一ノ規定ニ從ヒ強制執行ヲ爲スコトヲ得  
 但シ偽造ノ公訴起リタルトキハ其ノ執行ヲ停止スヘシ民事ノ訴訟ニ關シ偽造ノ申立アリタルト  
 キハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
 第三條 公證官吏ノ取扱書類ニ關シテハ公證人規則第十四條ニ準據シ作成證書ニ關シテハ同則第  
 三條ノ規定ニ準據ス同章中管轄始審裁判所ノ職務ニ屬セシメタルモノハ覆審法院之ヲ行ヒ郡區  
 長戸長ノ職務ニ屬セシメタルモノハ廳長街莊社長之ヲ行フ  
 第四條 公正證書作成費用及作成ノ爲出張セル公證官吏ノ旅費日當ハ申請人ノ負擔トス其ノ數額  
 ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五條 公證官吏ノ職務執行ニ關シ不服アル者ハ覆審法院ニ抗告スルコトヲ得  
 第六條 公證官吏其ノ職務執行ニ付申請人又ハ其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害カ  
 證官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ズル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責任ニ任ス  
 第七條 公證官吏差支アルトキハ法院書記ヲシテ代理職務セシムルコトヲ得  
 第八條 明治三十一年律令第八號第一條ニ依リ依據スヘキ法律中公證人ノ職務ニ屬セシメ及以モ  
 ンハ公證官吏ヲシテ之ヲ行ハシム  
 第九條 本令ニ規定スルモノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

**附則**

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム (此施行期日ハ明治三十七年二月臺灣總督府令第五號ヲ以テ  
 明治三十七年二月十日ト指定シタリ)

**公證規則施行細則** (明治三十七年二月臺灣總督府令第六號)

公證規則施行細則左ノ通相定ム  
 公證規則施行細則  
 第十條 公證官吏ハ公證官吏臺灣總督府法院判官ト刻シタル方七分ノ職印ヲ用キ法院書記代用執  
 務ノ場合ニ於テハ公證官吏代理臺灣總督府法院書記ト刻シタル方六分ノ職印ヲ用ウヘシ  
 第三條 公證官吏ノ作成シタル公正證書ニハ其ノ所屬法院又ハ出張所ノ印ヲ用ウヘシ若シテ用キ  
 ルコト不能ナル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載ス可シ  
 第三條 關係人自署スルコト能ハサルトキハ公證官吏之ヲ代書シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四條 公證官吏公正證書ニ署名スル場合ハ左ノ例ニ依ル

一 公證官吏臺灣總督府法院判官某

第五條 公證官吏ハ立會人又ハ立會官吏ナクシテ公正證書ヲ作成スルコトヲ得若立會人ヲ要スル

第六條 公證官吏ハ法院ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ付與スヘカラス

第七條 公正證書ノ原本其ノ他書類ノ本書ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合及法院若ハ出張所又ハ豫

第八條 當事者ハ公正證書ノ土語譯文ノ付與ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟費用

第九條 公證規則第二條ニ依リ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ公正證書ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要

第十條 債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ債權者ハ其ノ執行前公正證書ノ謄本

第十條 公證規則第三條但書公訴ヲ提起アリタル場合ニ於テハ其ノ公訴ノ起リタルコトヲ證スル

民事訴訟ニ關シ偽造ヲ申立アリタル場合ニ於ケル強制執行ノ停止ニ關シテハ民事訴訟法第五百

條ヲ適用ス

公證費用規則

(明治三十六年十二月臺灣總督府令第八十三號)

公證規則ニ依リ公證費用規則左ノ通相定ム

公證費用規則 第一條 公證規則ニ依リ公正證書ヲ作成ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 原本一枚ニ付 金四十錢
- 一 正本及謄本一枚ニ付 金二十錢

但シ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚、十行以下ハ半枚トシテ計算ス

第二條 地方法院及其ノ出張所所在地ヨリ一里以外ノ地ニ到リ事務ヲ取扱フ場合ニ於テハ手数料

第三條 法院前二條ノ費用ノ概算額ヲ申請人ヨリ豫納セシムルコトヲ得

附 則 本令ハ公證規則施行ノ日ヨリ施行ス

公證規則ニ依リ公證官吏ノ職務執行ニ關スル抗告手續

(明治三十六年十二月臺灣總督府令第八十四號)

公證規則ニ依リ公證官吏ノ職務執行ニ關スル抗告手續左ノ通相定ム

公證官吏ノ職務執行ニ關スル抗告手續

第一條 公證官吏ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ其ノ公證官吏ニ抗告狀ヲ差出スヘシ但シ急速  
 ナ要スル場合ニ於テハ直ニ覆審法院ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得  
 第二條 公證官吏抗告狀ヲ取リタルトキハ意見ヲ附シ三日以内ニ覆審法院ニ差出スヘシ  
 前條但シ書ノ場合ニ於テハ覆審法院ハ抗告ヲ受ケタル公證官吏ナシテ意見書ヲ差出サシメ及關  
 係書類ヲ送付ヲ求ムルコトヲ得  
 第三條 公證官吏ハ其ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事件ノ處分ヲ停止スヘシ  
 第四條 覆審法院ハ書面ニ依リ抗告ノ決定ヲ爲スヘシ但シ必要ナリト認ムルトキハ抗告人其ノ他  
 關係人ナシテ答辯ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第五條 覆審法院ハ抗告ノ決定書ヲ抗告ヲ受ケタル公證官吏及抗告人ニ送致スベシ  
 第六條 覆審法院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト決定シタルトキハ公證官吏ハ其ノ決定ニ依リ處分ヲ更  
 正スヘシ

附 則

本令ハ公證規則施行ノ日ヨリ施行ス

### 第九編 追 録

#### 工場抵當法

(明治三十八年三月法律第五四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル工場抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 工場抵當法

第三條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用  
 スル場所ヲ謂フ

營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第三條 工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ  
 附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物  
 ニ及フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者ガ債務者ノ  
 行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條 工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ  
 ハ其ノ土地又ハ建物ニ備付ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依  
 リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第二十二條第二項第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條 第二條第一項但書ニ掲ケタル別段ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ之ヲ記載  
 スヘシ

第五條 抵當權ハ第三條ノ規定ニ依リテ其ノ目的タル物ガ第三取得者ニ引渡サレタル後ト雖モ其  
 ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ民法第九百九十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六條 工場ノ所有者ガ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ  
 土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス



不動産登記法第八條第二項ノ規定ニ工場ヲ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ移カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 工場財團登記簿ハ一箇ノ工場財團ニ付一用紙ヲ備フ

第二十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ニ區ニ分テ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄ノ順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各財團ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ工場財團ノ表示ヲ爲シ及其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二十一條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載ス

- 一 工場ノ名稱及位置
- 二 主ナル營業所
- 三 營業ノ種類

第二十二條 工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外工場財團目録ヲ提出ス

前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ掲ケ申請人ニ署名捺印ス

第二十三條 所有權保存ノ登記ノ申請書ニハ其ノ財團ニ屬スヘキモノニシテ登記アルモノニ付テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當事項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ其ノ財團ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載ス

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ遲滞ナク管轄登記所ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲シ其ノ登記簿ノ謄本ヲ通知ヲ爲シタル登記所ニ送付ス

前三項ノ規定ハ工業所有權カ工場財團ニ屬スヘキ場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テ登記官吏ハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動産ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押者ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告ス

シ但シ其ノ期間ハ一箇月以上三箇月以下トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ満了前ニ却下セラレタルトキハ遲滞ナク之ヲ取消ス

第二十五條 前條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出ナキトキハ其ノ權利ハ存在セザルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ハタルトキハ此ノ限ニ在ラズ



第二十六條 第二十四條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所有權保存ノ登記ノ申請人ニ通知スヘシ

第二十七條 所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外左ノ場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

一 登記簿若シ其ノ謄本又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ニ依リ工場財團ニ屬スヘキモノカ他人ノ權利ノ目的タルコト又ハ差押、假差押若シ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

二 工場財團目錄ニ掲ケタルモノノ表示カ登記簿若シ其ノ謄本又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ト一抵觸スルトキ

三 工場財團ニ屬スヘキ動産ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若シ假處分ノ債權者カ其ノ權利ヲ申出テタル場合ニ於テ遲クトモ第二十四條第一項ノ期間滿了後一週間内ニ其ノ申出ヲ取消アラサルトキ又ハ其ノ申出ノ理由ヲキコトノ證明アラサルトキ

第二十八條 登記官吏カ所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スルシ

他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請ケルタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遲滞ナク通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條 工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登錄アルモノハ第二十三條ノ記載アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ヲ爲スコトヲ得ス

第三十條 第二十三條ノ記載アリタル後競賣申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ登記カ効力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若シ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ効力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ヲ取消スルシ

第三十三條 工場財團ニ屬スヘキ動産ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押アリタルトキハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押、假差押又ハ假處分アリタル場合ニ於テ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ効力ヲ失フ

第三十四條 登記官吏カ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ財團ニ屬シタルモノノ登記用紙中相當事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ノ送付ヲ要セス

第三十五條 所有權保存ノ登記アリタルトキハ工場財團目錄カ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載カ之ヲ登記ト看做ス

第三十六條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外

第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スルシ

第三十七條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外

第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スルシ

第三十八條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外

第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スルシ

第三十七條 登記官吏カ抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ヲ抹消スヘシ

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿謄本ノ送付ヲ要セス

第三十八條 工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所有者ハ遲滞ナク工場財團目錄ノ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ

第三十九條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノ又ハ新ニ屬シタルモノノ表示ヲ掲ケタル目錄ヲ提出スヘシ

第四十條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ前ノ目錄中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノニ變更ヲ生シタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十一條 新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ前ノ目錄ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條 工場財團ニ屬シタルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ前ノ目錄中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ抹消スヘシ

第四十三條 第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ前ノ目錄中其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ抹消スヘシ

第四十四條 工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ抹消スヘシ

第四十五條 工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第四十六條 民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタルトキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル

權利ノ登記又ハ登録ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ囑託スヘシ  
第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ効力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡又ハ質入ノ目的ヲ以テ第二條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タル物ヲ第三者ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス  
前項ニ規定シタル行爲ト雖刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第五十條 工場ノ所有者カ抵當權ノ目的ト爲シタル物又ハ抵當權ノ爲シタル工場財團ニ屬スル物ヲ毀損シ又ハ毀損セシメタルトキハ刑法第四百十七條乃至四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ明治三十八年六月勅令百八十七號ヲ以テ明治三十八年七月一日ト指定シタリ)

工場抵當登記取扱手續

(明治三十八年六月司法省令第十八號)

工場抵當登記取扱手續左ノ通相定ム

工場抵當登記取扱手續

第一條 工場抵當法ニ依リ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 工場財團登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 工場財團共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシニハ工場

第四條 工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ工場抵當法第二十二條ニ掲ケタル書面ノ外工場ノ圖面ヲ提出スヘシ

第五條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ工場ニ付工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ工場抵當法第二十一條第一號乃至第三號ノ事項ニ付各所有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第六條 工場財團目錄ノ記載ハ第九條ノ規定ニ從フヘシ

第七條 土地ニ付テハ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數及用方ヲ記載スヘシ

第八條 工作物ニ付テハ其ノ種類、構造及建坪又ハ延長ヲ記載シ且其ノ所在ノ土地ヲ表示スヘシ

第九條 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物ニ付テハ其ノ種類、構造、箇數又ハ延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月、記號、番號其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルヘキ特質アルトキハ其ノ特質ヲ記載スヘシ

數箇ノ土地又ハ工作物ノニニ附屬スル物ニ付テハ其ノ附屬スル土地又ハ工作物ヲ表示スヘシ

輕微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 登記シタル船舶ニ付テハ船舶登記規則第十六條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十一條 地上權ニ付テハ第七條ニ掲ケタル事項ノ外設定ノ目的及範圍、存續期間、地代及其ノ支拂時間ノ設定ノ年月日並ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十二條 賃借權ニ付テハ第七條、第八條、第九條又ハ第十條ニ掲ケタル事項ノ外存續期間、借賃

及其ノ支拂時期、設定ノ年月日並ニ貸入ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ  
 第十三條 工場抵當法第十六條第三項ニ依リ抵當權ノ目的タルヘキ地役權ニ付テハ承役地ノ表示  
 設定ノ目的及範圍、設定ノ年月日並ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ  
 第十四條 工業所有權ニ付テハ其ノ權利ノ種類、名稱、番號及原簿登錄ノ年月日ヲ記載スヘシ  
 工業所有權ニ關スル實施權ニ付テハ實施權ノ範圍並ニ本權ノ種類、名稱、番號、原簿登錄ノ年月  
 日及其ノ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十五條 敷箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ各工場ニ屬スル者ヲ區分シテ記載スヘシ  
 敷箇ノ工場ヲ各別ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テハ各所有者ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

第十六條 工場財團目錄ヲ作成スルニハ美濃川大ノ紙料ヲ用ユヘシ  
 第十七條 工場財團目錄ニハ其ノ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ申但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一  
 人ノ契印ヲ以テ足ル

第十八條 工場ノ圖面ニハ工場ニ屬スル土地及工作物ノ方位、形狀及間尺並ニ重要ナル附屬物ノ  
 配置ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スヘシ  
 地上權ノ目的タル土地、賃借權ノ目的タル土地及工作物並ニ承役地ニ付テハ各其ノ方位形狀及  
 間尺ヲ記載スヘシ

工場ノ一部ヲ以テ工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ財團ニ屬スル部分ト之ニ屬セサル部分トヲ區  
 分スヘシ

第十九條 登記官吏カ工場抵當法第二十條第三項ニ依リ表示欄ニ工場財團ノ表示ヲ爲スニハ工場  
 ノ名稱、位置、主タル營業所及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

第五條ノ場合ニ於テハ所有者ノ氏名又ハ名稱ヲモ記載スヘシ  
 第二十條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ工場財團目錄及工場ノ圖面ニ申請書受付ノ年月日、  
 受付番號及登記番號ヲ記載スヘシ

工場抵當法第三十九條ニ依リ提出シタル目錄ニハ申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スルヲ  
 以テ足ル

第二十一條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第四項、第二十六條、第二十八條第二項、  
 第三十四條第二項、第三十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項、第四項及第四十八條第二  
 項ニ依リ通知ヲ爲ストキハ其ノ要旨、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ不動産登記法施  
 行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ記入シ通知書ト契印スヘシ

第二十二條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第二十八條第二項、第三十四條第二項、第三  
 十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項及第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ受  
 付帳ニ通知事項ノ要旨、通知ヲ爲シタル登記所ノ名稱、受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ通知書  
 ニ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ、通知ヲ爲シタ  
 ル登記所ノ名稱ハ申請人ノ氏名欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十三條 工場財團目錄及工場ノ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ  
 第二十四條 工場抵當法第三條ノ場合ニ於テハ土地又ハ建物カ同法第一條ノ工場ニ屬スルモノナ  
 ルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出スヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲ストキハ  
 工場抵當法第三條ニ依リテ目錄ノ提出アリタルコトヲ記載スヘシ

第五條ノ場合ニ於テハ所有者ノ氏名又ハ名稱ヲモ記載スヘシ  
 第二十條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ工場財團目錄及工場ノ圖面ニ申請書受付ノ年月日、  
 受付番號及登記番號ヲ記載スヘシ

工場抵當法第三十九條ニ依リ提出シタル目錄ニハ申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スルヲ  
 以テ足ル

第二十一條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第四項、第二十六條、第二十八條第二項、  
 第三十四條第二項、第三十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項、第四項及第四十八條第二  
 項ニ依リ通知ヲ爲ストキハ其ノ要旨、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ不動産登記法施  
 行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ記入シ通知書ト契印スヘシ

第二十二條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第二十八條第二項、第三十四條第二項、第三  
 十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項及第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ受  
 付帳ニ通知事項ノ要旨、通知ヲ爲シタル登記所ノ名稱、受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ通知書  
 ニ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ、通知ヲ爲シタ  
 ル登記所ノ名稱ハ申請人ノ氏名欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十三條 工場財團目錄及工場ノ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ  
 第二十四條 工場抵當法第三條ノ場合ニ於テハ土地又ハ建物カ同法第一條ノ工場ニ屬スルモノナ  
 ルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出スヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲ストキハ  
 工場抵當法第三條ニ依リテ目錄ノ提出アリタルコトヲ記載スヘシ

		第 號		登 記 番 號
(權有所) 區 甲		(示表團財場工) 部 題 表		
	順位番號	工場財團登記簿		表示番號
	事 項 欄			表 示 欄
	順位番號			表示番號
	事 項 欄			表 示 欄
	順位番號	丁		表示番號
	事 項 欄			表 示 欄

第三十六條、第九條、第十六條、第十七條、第二十條及第二十三條ノ規定ハ工場抵當法第三條ノ目録ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ工場抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

工場財團登記簿

區 裁 判 所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地 方 裁 判 所 長

紙數表紙ヲ除キ  
枚

地方裁判所長

附錄第二號

工場財團共同人名簿

區裁判所

(權當抵)區	工場財團登記簿	乙
		番順位
		事項欄
		番順位
		事項欄
		番順位
	事項欄	
	丁	



競落又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ハ採掘權取消ノ登錄アリタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス  
 前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採掘權ヲ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス  
 第五條 前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ適用ス  
 第六條 競買ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從テ法人ヲ設立セムト欲シ者カ競買ニ加入スルトキハ競買ノ申込並同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツルベシ  
 前項ノ規定ニ依リ競買ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス  
 第七條 鑛業財團ノ競落人カ前條第二項ノ規定ニ依リ競買ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定ハ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ法人ヲ設立シテ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ  
 第八條 前條立競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其殘額ノミチ支拂フヲ以テ足ル  
 第九條 前條ノ規定ニ依リ競落代金ヲ支拂フタリタル時ハ競買ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス  
 第十條 第七條ノ期間内ニ法人設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ヲ再競買ヲ命ズルベシ  
 前項ノ再競買ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ適用ス  
 第十一條 工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（此期日ハ明治三十八年六月勅令第百八十八號ヲ以テ明治三十八年七月一日ト指定シタリ）

鑛業登錄令

（明治三十八年六月勅令第百八十三號）

朕鑛業登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 鑛業ニ關スル登錄ハ鑛山監督署ニ於テ之ヲ爲ス  
 第二條 同一ノ鑛業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル  
 第三條 附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依ル但シ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル  
 第四條 假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第二章 鑛業原簿

第五條 鑛業原簿ハ試掘原簿、採掘原簿ノ二種トス  
 共同鑛業權者ニ付テハ共同人名簿、鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス  
 第六條 何人ト雖手數料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ノ請求スルコトヲ得



手数料ノ外郵便切手ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得  
第七條 鑛業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ調製ニ關スル手續ハ農商務大臣之  
ヲ定ム

前項ニ依リ調製シタル原簿ハ滅失前ノ鑛業原簿ト看做ス

第八條 前條鑛業原簿ノ調製ヲ終リタルトキハ其ノ登錄ノ謄本又ハ抄本ヲ登錄名義人ニ交付スル  
コトヲ要ス

第三章 登錄手續

第一節 通則

第九條 登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請、囑託又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ爲ス  
コトヲ得ス

囑託又ハ命令ニ因ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登錄ニ  
關スル規定ヲ準用ス

第十條 登錄ハ登錄權利者及登錄義務者又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ申請スルコト  
ヲ要ス

第十一條 判決又ハ相續ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十二條 登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條 左ノ登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ囑託スル  
コトヲ要ス

一 處分ノ制限ノ登錄

二 公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄

第十四條 鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ登錄  
ヲ命スルコトヲ要ス

第十五條 登錄ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

一 申請書

二 登錄原因ヲ證スル書面

三 登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四 代理人ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

申請カ鑛業權ノ設定、變更其ノ他鑛業權ノ表示ノ變更又ハ更正ニ關スルトキハ前項第二號ノ書  
面ヲ提出スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコ  
トヲ要セス

國、法人ノ代表者又ハ共同鑛業ノ代表者ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ第一項第四號ノ書面ヲ

提出スルコトヲ要セス

第十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 鑛區所在地
- 二 鑛業權ノ登錄番號
- 三 申請人ノ氏名及住所
- 四 代理人又ハ代表者ニ依リテ申請スルトキハ本人ノ氏名又ハ名稱及住所

五 登錄原因及其ノ日附  
六 登錄ノ目的  
七 年月日

申請力礦業權ノ設定又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル抵當權ノ設定ニ關スルトキハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

申請力礦業權ノ設定、變更其ノ他礦業權ノ表示ノ變更又ハ更正ニ關スルトキハ第一項第五號ノ記載ヲ要セス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ申請人ハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戸籍ノ謄本又ハ之ヲ證スルニ足ルキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 申請人カ相續人ナルトキ

二 登錄名義人カ其ノ表示ノ變更ヲ申請スルトキ

三 死亡ニ因ル共同礦業權者脫退ノ登錄ヲ申請スルトキ

第十八條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代フルコトヲ得

第十九條 同一礦山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ礦區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナル時ニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スル事ヲ得

第二十條 登錄ハ受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ受理セス

一 事件カ管轄ニ屬セザルトキ

二 事件カ登錄スヘキモノニ非ザルトキ

三 當事者ガ出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出サザルトキ

四 申請書カ方式ニ適合セザルトキ

五 申請書ニ掲ケタル礦業權又ハ抵當權ノ表示力礦業原簿ト抵觸スルトキ

六 第十七條第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者及共同礦業代表者ノ表示力礦業原簿ト符合セザルトキ

七 申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セザルトキ

八 申請ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ提出セザルトキ

九 登錄稅ヲ納付セザルトキ

第二十二條 登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同礦業權者脫退ノ登錄ハ附記ニ依リ之ヲ爲ス

第二十三條 行政區畫又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ礦業原簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其

ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十四條 登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨

ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スルコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ礦業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ更正ノ登錄ヲ爲シタル後前項ノ通知ヲ

ナスコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ

關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リ更正ノ登録ヲ爲ス

第二十五條 抹消シタル登録ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條 申請書其ノ他登録ニ關スル書面ヲ作ルルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス  
金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ヰルコトヲ要ス  
文字ハ之ヲ改竄スルヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀得ヘキ爲字體ヲ存スルヲ要ス

第二節 礦業權ニ關スル登録手續

第二十七條 命令ニ因ル礦業權ノ表示ノ變更又ハ礦業ニ關スル出願ノ許可ニ因ル申請ハ登録權利者ニ於テ之ヲ爲シ申請書ニ礦物ノ名稱及礦區ノ面積ヲ記載シ且礦山監督署長ノ命令書又ハ許可ニ關スル通知書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十八條 死亡、破産又ハ禁治産ニ因ル共同礦業權者脱退ノ登録ハ登録權利者又ハ登録義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 礦區ノ合併又ハ分割ニ因ル探掘權設定及減區又ハ増減區ニ因ル礦業權變更ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ合併、分割又ハ減少田ノ礦業權ニ付登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス但シ礦區ノ分合又ハ増減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十條 礦業法第三十五條第二項ノ場合ニ於テ探掘權設定ノ登録ノ申請アリタルトキハ其ノ旨ヲ抵當權者ニ通知スルコトヲ要ス  
前項ノ抵當權者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抵當權設定ノ登録ヲ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ抵當權者ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル  
前二項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知ヲ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間満了ノ日ニ於テ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 抵當權ニ關スル登録手續

第三十一條 礦業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條 抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登録原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十三條 抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ設定者ニ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權力債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十五條 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條 抵當權ノ變更ノ登録ヲ爲スニ付登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ  
第二十四條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 抵當權ノ移轉、順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登録ハ附記ニ依  
リテ之ヲ爲ス

第四節 抹消ニ關スル登録手續

第三十八條 期限ノ滿了ニ因リ礦業權カ消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シ抹消ノ登録ヲ爲スコ  
トヲ要ス

第三十九條 廢業ニ因ル礦業權消滅ノ登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十條 礦區ノ合併又ハ分割ニ因ル探掘權設定ノ登録ヲ爲シタルニ因リ其ノ合併又ハ分割前ノ  
探掘權消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シテ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 抵當權ノ登録アル探掘權ニ關シ廢業ニ因ル抹消ノ申請アリタルトキハ抹消ノ登録ヲ  
爲スト同時ニ競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

抵當權者競賣ノ請求ヲ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登録アリタル場合ニ於テ其ノ登録抹消ノ囑  
託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登録シタル後存續ニ關スル記載ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四十二條 前條ノ規定ハ礦業法第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外抵  
當權ノ登録アル探掘權取消ニ因ル抹消ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 抵當權カ人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戸籍ノ  
謄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スル由ハ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十四條 登録權利者カ登録義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之レト共ニ登録ノ抹消ヲ申請スル  
コト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登録權利者ノミニテ登録  
ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書或債權及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタル  
トキハ登録權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十五條 廢業ニ因ル場合ヲ除クノ外登録ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登録上利  
害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條 第十三條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル礦業權移轉ノ登録ノ囑託アリタル場合ニ於テ  
ハ處分ノ制限ノ登録ヲ抹消シ若シ抵當權ノ登録アルトキハ其ノ登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四章 假登録及豫告登録

第四十七條 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一 礦業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件  
カ具備セザルトキ

二 前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第四十八條 假登録ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登録權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル礦區ノ所在  
地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添付シテ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登録權利者カ假登録原因ヲ疏明シタル由ハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス  
申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 假登録ハ假登録義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登録權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十條 假登録ノ抹消ハ假登録名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得  
申請書ニ假登録名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登録上ノ利害關係人ヨリ假登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條 豫告登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

- 一 登録原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登録ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登録原因ノ無効又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル
- 二 礦業法第八十九條ノ規定ニ依リ礦業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴訟又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第五十二條 豫告登録ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴訟ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴狀若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第五十三條 第五十一條第一號ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判力確定シタルトキ訴ノ取下アリタルトキ請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登録ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五十四條 第五十一條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若ハ其ノ取下アリタルトキハ農商務大臣ハ豫告登録ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五章 異議

第五十五條 登録ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 異議ハ礦山監督署長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第五十七條 異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ證據ト爲スコトヲ得ス

第五十八條 礦山監督署長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ農商務大臣ニ送付スルコトヲ要ス

礦山監督署長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登録完了ノ後ナルトキハ假登録ヲ爲シ之ヲ登録上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條 異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第六十條 農商務大臣ハ登録上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

附則

第六十一條 本令施行前ニ礦山監督署ニ備付タル礦業ニ關スル原簿及書入登録簿ヲ以テ舊礦業原簿トス

第六十二條 本令施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採掘權設定登録ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 本令施行前ニ認可若ハ特許ノ礦業權又ハ登録ノ抵當權ニ付礦業權ノ抹消ヲ除クノ外登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スコトキハ礦業原簿ニ舊礦業原簿中抹消ニ係ラサル登録ヲ移シ舊礦業原簿中礦業原簿ニ移シタル登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第六十四條 舊鑛業原簿ニ記載シタル鑛業權ニ付其ノ抹消登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第六十五條 鑛業條例ニ依リ差出シタル廢業届ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 鑛業條例ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換願、採掘權書入登錄願又ハ登錄シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第六十七條 本令施行前ニ相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル届書ヲ差出スヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 鑛業登錄令施行細則

(明治三十八年六月農商務省令第十八號)

鑛業登錄令施行細則左ノ通定ム

鑛業登錄令施行細則

#### 第一章 登錄ニ關スル帳簿

第一條 鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業原簿ハ府縣ノ區畫ニ依リ北海道ニ付テハ國ノ區畫ニ依リ別冊ト爲スヘシ但シ登錄事件夥多ナル府縣又ハ國ニ付テハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ二箇以上ノ別冊ト爲スコトヲ得

第三條 鑛業原簿ハ一區區ニ付一用紙ヲ備フ

鑛區カ鑛業原簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨ルトキハ其ノ一箇ノ區畫ノ鑛業原簿ニノミ其ノ鑛區ニ關スル用紙ヲ備フ

第四條 共同人名簿ハ第三號及第四號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 共同人名簿ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出サ附スヘシ

第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ申請書受附ノ年月日及受附番號並登錄番號ヲ記載シ登錄番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第七條 (明治三十九年五月農商務省令第十六號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第八條 (同上)

第九條 (同上)

第十條 (同上)

第十一條 登錄受附帳ハ第七號様式ニ依リ毎年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第十二條 鑛山監督署ニハ登錄事務ニ關シ鑛業原簿、共同人名簿、鑛區圖綴込帳及登錄受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ(同上法令ヲ以テ條中削除)

一 申請書囑託書附屬類綴込帳

二 通知書綴込帳

三 通知簿

四 鑛業原簿簿本綴込帳

五 鑛業權抵當權登錄簿

六 異議書類決定原本綴込帳

七 謄本抄本交付閱覽申請事件簿

八 謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳

第十三條 前條第三號及第五號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第十四條 鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ

一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二 鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項

三 申請ノ範圍

四 年月日

第十五條 前條ノ申請アリタルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十六條 鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛山監督署長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業原簿ノ謄本ヲ他ノ鑛山監督署ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 鑛業原簿ヲ分設シタル區畫カ他ノ鑛山監督署ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ全部ノ場合ニ在リテハ其ノ區畫ニ關スル鑛業原簿及其ノ附屬書類ヲ、一部ノ場合ニ在リテハ其ノ部分ニ於ケル鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ移送スヘシ

第二章 申請手續

第十九條 登錄申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第二十條 數個ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ同一ノ登錄原因ニ因ル抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニハ最初ニ登錄ヲ申請スル鑛山監督署ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登錄ヲ申請スヘキ鑛山監督署ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ鑛山監督署ニ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ受領書ヲ添附スヘシ

前三項ノ規定ハ同一ノ登錄原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 登錄手續

第二十一條 申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受附帳ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ

依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登録申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト見做ス  
 前項受附番號ハ受附ノ順序ニヨリ之ヲ附スベシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十二條 登録番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ探掘原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ、探掘原簿ニ在リテハ甲區事項欄ニ探掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第二十三條 表示欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登録ノ目的其ノ他鑛業權ノ表示ニ關スル事項並登録ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

事項欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録權利者ノ氏名又ハ名稱住所登録原因及其ノ日附登録ノ目的其ノ他登録スヘキ權利ニ關スル事項並登録ノ年月日ヲ記載シテ擔當

職員捺印スヘシ

第二十四條 表示欄ニ登録ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登録ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記轉スヘシ

第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登録ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十五條 表示欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十六條 附記登録ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登録ノ番號ヲ用キ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ左側ニ附記登録番號ヲ記載スヘシ

第二十七條 假登録ハ登録用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十八條 假登録ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登録ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第二十九條 假登録ヲ爲シタル後本登録ノ申請アリタルトキハ假登録ノ左側ノ餘白ニ其ノ登録ヲ爲スヘシ

第三十條 豫告登録ハ鑛業登録令第五十一條第一號ニ關スルモノニ付テハ登録用紙中相當區事項欄ニ同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 變更又ハ更正ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ登録ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登録事項ヲ朱抹スヘシ



第三十二條 登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、順位番號及登錄簿ノ旨ヲ記載シ、鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付シ且登錄義務者ニハ登錄番號、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號及登錄簿ノ旨ヲ記載シ、鑛山監督署ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ但シ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル

鑛業ニ關スル出願ノ許可ニ因ル登錄ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ノ通知書ニ前項ニ準シタル記載ヲ爲シ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第三十三條 鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三十四條 前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルトキハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ若シ登錄事項ノ一部ノヨリ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

第三十五條 第十八條ニ依リ鑛業原簿原本ノ移送ヲ受ケタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ謄本ニ依リ相當鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

鑛業原簿ヲ移ストキハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄區畫及前登錄番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ鑛業原簿ノ謄本ニ依リ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ前登錄用紙中表欄及事項欄ニ他ノ鑛山監督署ノ鑛業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第三十六條 同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル鑛區カ他ノ登錄區畫ニ轉屬シタルトキハ其ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登錄用紙中部又ハ區カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ編綴用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴スル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 登錄ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區編綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條 鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ關スル登錄ノ申請ニ付登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ  
共同鑛業代表者改定ノ届出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登錄ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ抹スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ

氏名又ハ名稱及其ノ届出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ハ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登録番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第四十一條 共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脱退ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登録ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ抹スヘシ

第四十二條 前三條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル者ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登録ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第四十四條 共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名欄ニ於ケル末尾ノ縦線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第四十五條 數箇ノ探掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ探掘權ニ付抵當權設定ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ探掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ他ノ探掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ探掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登録ヲ爲シタルトキハ他ノ探掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ其抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登録事項ヲ抹スヘシ

第四十七條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ探掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登録ヲ爲シタルトキハ鑛山監督署長ハ關係鑛山監督署長ニ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十八條 登録ヲ抹消スルニハ抹消ノ登録ヲ爲シタル後抹消スヘキ登録ヲ抹スヘシ

第四十九條 鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基テ爲シタル競賣ニ因ル探掘權移轉ノ登録ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲シタル後移轉ノ登録ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登録用紙ノ表示欄ニ新登録用紙ニ登録ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十條 第十八條又ハ鑛業登録令第二十三條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ表紙ニ記載シタル鑛山監督署又ハ行政區畫ノ名稱ノ變更アリタルトキハ其ノ表紙ニ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ且其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附則

第五十一條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 鑛業登録令第六十三條ノ規定ニ依リ舊鑛業原簿ヨリ登録ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ舊鑛業原簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊鑛業原簿ニ鑛業原簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、其ノ登録番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

		登錄 番號
區 項 事		表 示 欄
番 順 號	試 掘 原 簿	表 示 欄
事 項 欄		表 示 欄
番 順 號		表 示 欄
事 項 欄		表 示 欄
番 順 號	丁	表 示 欄
事 項 欄		表 示 欄

第一號樣式

何府縣(國、郡)
試掘原簿
第何冊
何嶺山監督署
紙數表紙ヲ除キ
枚
何嶺山監督署長
何
年月日
某印

甲		採掘原簿	...	登 號
番 號	順 位		部 題	表 示 欄
事 項	欄			表 示 欄
番 號	順 位			表 示 欄
事 項	欄	丁		表 示 欄
番 號	順 位			表 示 欄
事 項	欄			表 示 欄

第二號樣式

何府縣(國、郡)	採掘原簿	第何冊
何 何 某 印	紙數表紙ヲ除キ 枚	何 何 某 印
年 月 日	何 何 某 印	何 何 某 印

第三號樣式

紙數表紙ヲ除キ 年月日	何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡) 試掘共同人名簿
何嶺山監督署長 何 某印	第何册 何嶺山監督署

乙		丙	
順位	事項欄	順位	事項欄
番號	事項欄	番號	事項欄
順位	事項欄	順位	事項欄
番號	事項欄	番號	事項欄

採掘原簿

丁

第四號樣式

紙數表紙ヲ除キ 年月日	何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡) 採掘共同人名簿 第何冊 何鐵山監督署
何鐵山監督署長 何 某印	枚

	番號		番號	
	代表者欄		代表者欄	
	共同人名欄		共同人名欄	
	備		備	
	考		考	

試掘共同人名簿

丁







- 七 採掘鑛區變更願  
減區  
增區又ハ増減區  
減區訂正  
每一件 金五十圓
- 八 採掘鑛區ノ合併又ハ分割願  
每一件 金三十圓
- 九 採掘鑛區ノ分合願  
每一件 金五十圓
- 十 採掘出願人ノ變更屆  
相續  
相續以外ノ原因ニ因ル變更  
每一件 金五圓
- 十一 共同鑛業出願人ノ脫退屆  
每一件 金五十圓
- 十二 鑛種名更正願  
每一件 金五圓
- 十三 鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査願  
每一件 金十圓
- 十四 鑛業法第五十二條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査願  
每一件 金五十圓
- 十五 鑛業法第五十三條ノ規定ニ依ル障礙物除却願  
每一件 金十圓

鑛業法第五十二條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査願  
鑛業法第五十三條ノ規定ニ依ル障礙物除却願

- 十六 鑛業法第五十六條ノ規定ニ依ル鑛業用地使用願  
每一件 金二十五圓
- 十七 裁決申請  
每一件 金二十五圓
- 第二條 鑛業登録令第六條ノ規定ニ依リテ鑛業原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ  
一 鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請  
用紙每一枚 金五十圓
- 二 鑛區圖謄本交付ノ申請  
鑛區每十萬坪 金二圓五十錢
- 三 鑛業原簿又ハ附屬書類ノ閲覧申請  
每鑛區每一時間 金二十五錢
- 紙數、面積又ハ時間ニ依リ手数料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス
- 第三條 砂鑛採取業ニ關スル出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ  
一 砂鑛採取願  
每一件 金二十圓
- 二 砂鑛採取出願地ノ増減又ハ増減區願  
每一件 金二十圓
- 三 砂鑛採取出願地ノ減區願  
每一件 金五圓
- 四 砂鑛採取地ノ増區又ハ増減區願  
每一件 金二十圓
- 五 砂鑛採取地ノ減區願  
每一件 金五圓

- 六 砂鑛採取地ノ合併又ハ分割願 每一件 金五圓
  - 七 砂鑛採取出願人ノ變更願 每一件 金五圓
  - 相續
  - 相續以外ノ原因ニ依ル變更 每一件 金十圓
  - 八 砂鑛採取出願人ノ除名願 每一件 金五圓
  - 九 砂鑛採取業讓渡願 每一件 金二十圓
  - 十 砂鑛採取業相續願 每一件 金五圓
  - 十一 砂鑛採取人除名願 每一件 金五圓
  - 十二 廢業願 每一件 金五圓
  - 十三 砂鑛採取地圖再下付願 每一件 金五圓
  - 十四 砂鑛採取原簿又ハ砂鑛採取地圖閱覽願 每採取地每一時間金二十五錢
  - 十五 鑛山監督署長ノ判定請求 每一件 金二十五圓
  - 十六 農商務大臣ノ裁定請求 每一件 金二十五圓
- 前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ二里毎ニ、其ノ他ニ在リテハ十萬坪毎ニ一件分ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 第一項第二號及第四號ノ出願ニ付テハ其ノ増區部分ノミニ付前二項ニ依ル手数料ヲ納ムヘシ
- 里數ニ依リテ定メタル區域ナ坪數ノ區域ニ變更シ又ハ坪數ニ依リテ定メタル區域ナ里數ノ區域ニ變更スル場合ニハ其ノ變更シタル全區域ノ半ヲ以テ増區部分ト看做シ其ノ手数料額ヲ計算ス

面積又ハ時間ニ依リ手数料額ヲ定ムル場合ニ於テハ二里、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖二里、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第四條 手数料ハ收入印紙ヲ願書、申請書、請求書又ハ届書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第五十號ハ之ヲ廢止ス

**鑛業抵當登記取扱手續** (明治三十八年六月司法省令第十九號)

- 鑛業抵當登記取扱手續左ノ通相定ム
- 鑛業抵當登記取扱手續
- 第一條 鑛業抵當法ニ依ル鑛業財團ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外工場抵當登記取扱手續中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第二條 鑛業財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ鑛業抵當法第三條及工場抵當法第二十二條ニ掲ケタル書面ノ外工作物ノ配置ヲ記載シタル圖面ヲ提出スヘシ
- 前項ノ圖面ニハ申請人署名、捺印スヘシ
- 第三條 鑛業財團目錄ニ掲クヘキ鑛業權ニ付テハ鑛區ノ位置、鑛物ノ名稱、鑛區ノ面積、鑛業權設定ノ年月日及其ノ登録番號ヲ記載スヘシ
- 探掘權ニ付期限アルモノニ付テハ其ノ期限ヲモ記載スヘシ

第四條 鐵業財團目錄ニ掲グヘキ土地ノ使用權ニ付テハ土地所在ノ郡、市、區、町、村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、使用ノ目的、使用ノ時期、使用ノ期間、使用料及其ノ支拂時期並ニ土地所有者及關係人ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第五條 數箇ノ鐵業權ニ付鐵業財團ヲ設ケル場合ニ於テ鐵業財團目錄ヲ作成スルニハ各鐵區ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ但シ數箇ノ鐵區ニ付各條實施ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 登記官吏ハ鐵業財團登記簿ノ用紙中表示欄ニ鐵業財團ノ表示ヲ爲スニハ鐵區ノ位置、鐵物ノ名稱、鐵區ノ面積、鐵業權ノ登錄番號及鐵業事務所ヲ記載スヘシ

第七條 鐵業財團目錄及第二條ニ依リ提出シテ成ル鐵區圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

本令ハ鐵業抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 鐵道抵當法 (明治三十八年三月法律第五十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ鐵道抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道抵當法

#### 第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株式會社ヲ謂フ

第二條 會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設ケルコトヲ得

鐵道財團ニ屬スルモノトシテ同時ニ他ノ鐵道財團ニ屬スルモノトシテ得ス

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス

鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條 鐵道財團ハ左ニ掲ケルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一 鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械
- 二 工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械
- 三 鐵道用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械
- 四 鐵道用通信、又ハ信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械
- 五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權
- 六 車輛及之ニ屬スル器具機械
- 七 保線ニ要スル材料及器具機械

第四條 鐵道財團ノ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニシテ貸借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設ケルコトヲ得ス但シ不動産ニ關スル權利ニ付其ノ登記ヲキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ決議ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受ケルニ因リテ其ノ効力ヲ生ス

第六條 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條 抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

主務官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月内ニ抵當權設定認可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社力前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條 前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條 第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條ニ掲ケタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ

前項ニ掲ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

但シ抵當權設定ノ認可カ効力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間内ニ申出ヲ爲ササル權利者並期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定力認可セラレタルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條 抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月一其ノ登録ノ申請ナキトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ

第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權當ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社力受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 會社力鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者力前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ主務官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 會社力鐵道財團ニ關スル工率方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ主務官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミナ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受ケヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登録ニ其ノ代價ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二章 登録

第二十七條 鐵道財團ニ關スル登録ヲ爲ス爲主務官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第二十八條 登録ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條 抵當權設定ノ登録申請書ニハ左ノ書面ヲ添付スヘシ

- 一 抵當權ノ設定ニ關スル證書
- 二 鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登録申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條 抵當權設定ノ登録ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

- 一 第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項
- 二 免許ニ附シタル條件
- 三 抵當權ヲ設定シタルコト
- 四 抵當權設定認可ノ年月日
- 五 登録ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登録スルコトヲ要セス

第三十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

變更又ハ消滅カ主務官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス

第三十二條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登録ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滞ナク其旨ヲ届出ヘシ

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條 一用紙ノ抵當權ノ登録カ全部抹消セラレタルトキハ主務官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場

合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキ

二 不動産ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條 登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受ケル迄

ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分

ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タ

ルモノカ主務官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閲覧ヲ請求シ又ハ手数料ヲ納付シテ鐵道抵

當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 鐵道抵當原簿ノ調製ハ鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登録ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ

定ム

第三章 強制競賣及強制管理

第四十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執

行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シ

テハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ主務官廳ノ官吏之ヲ付與

ス

第四十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專

屬ス

第四十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地

二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル

場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セズ

第四十四條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ニ競買人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下グルコトヲ得

第四十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載

シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登録

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登録ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條 裁判所ハ競買手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條 裁判所ハ主管官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競買ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競買價額ヲ爲スヘシ

第四十九條 裁判所ハ競買期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 競買ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示  
二 競買期日ノ場所 日時及入札締切ノ時  
三 最低競買價額

四 競落期日ノ場所及日時  
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第五十條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競買ニ加入スルニハ競買ニ付セラレタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ヲ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス  
前項ニ依リ競買ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス  
第五十一條 前條第一項ニ依リ競買ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競買價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者ハ之ニ加入スルモノニ付テハ其ノ債權額ヲ最低競買價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リ之ヲ適用セズヘシ

第五十二條 競買ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルニキ同價額又ハ入札三箇以上アラスキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額又ハ入札之ルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤法ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條 競買ニ加入スルコトヲ得サル者ノ爲シタル入札ハ無効トス

第五十五條 競買期日ニ於テ入札ナキ者ハ許スルキ入札ナキトキ又ハ最低競買價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競買期日ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競買價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條 入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス沙定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競買手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ  
第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競買ノ終局ヲ告知スヘシ  
第五十八條 裁判所ハ競買ニ關スル調査ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競買ニ付セラレタル鐵道財團ヲ表示
- 二 競買申立人ノ表示



三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競買價額ニ達スル入札ナキコト並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五 競買ノ終局ヲ告知シタル日時並最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條 強制競買申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十四條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競買ヲ爲シタル場合ニ限り債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競買ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競買期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競買期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限り競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條 競落ヲ許ス決定ヲ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第六十五條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定ヲ確定シタル日又ハ本免許ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミチ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條 競落代金ノ支拂アリタルトキハ競買ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ第五十條第一項ニ依リ競買ニ加入シタル者ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス

第六十七條 本免許狀ノ下付ナキトキハ第七十三條ノ期間内ニ本免許ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競買期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ本免許ハ取消サレタルモノトス

第六十八條 裁判所ハ競落代金ノ申ヨリ順次ニ競買ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競買申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録及抵當權ノ登録ヲ抹消スルコト  
 二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社力取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記並第十一條第二項ニ依リテ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登録ノ抹消ヲ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録ヲ抹消スヘシ

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ簡便ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條第四十九條第五十二條乃至第六十六條第六十七條第一項第三項第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價証券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條 競落人ハ第五十條第一項ニ依リテ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ發起人トシテ會社ヲ設立スヘシ

第七十三條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ本免許ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ本免許ヲ申請スルニハ左ニ掲ケル書類ヲ添付スヘシ

一 定款

二 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定ノ謄本

三 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込書ノ謄本、發起人、取締役、監査役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第七十五條 競落人タル會社カ本免許ヲ申請スルニハ定款ノ變更ト同一方法ノ決議ニ依ルヘシ

本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條 主務官廳ハ前三條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

第七十七條 本免許ハ會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

本免許カ效力ヲ生シタルトキハ會社ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第八十條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條 主務官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

主務官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽ケコトヲ得

主務官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條 主務官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人ノ之ヲ負フ

第八十七條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ主務官廳ニ差出スヘシ

主務官廳ハ前項計算報告ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ主務官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ主務官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰則

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

- 二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
  - 三 第二十條又ハ第二十一條ノ備告ヲ爲ササルトキ
  - 四 登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ
  - 五 鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ
  - 六 管理方法ニ付主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
  - 七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ
  - 八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
  - 九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ
- 第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（此期日ハ明治三十八年六月勅令第百八十六號ヲ以テ明治三十八年七月一日ト指定シタリ）

鐵道抵當法施行規則

（明治三十八年五月逡信省令第三十七號）

鐵道抵當法施行規則左ノ通定ム

鐵道抵當法施行規則

第一條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出

一 抵當負債ヲ要スル事由

二 前債償還ノ爲ニスル場合ニ於テ其ノ整理ニ要スル期間

第二條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外尙ホ左ノ書

一 抵當證書又ハ信託證書ノ謄本

二 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三 最終ノ貸借對照表

四 元利支拂ノ豫算

五 株金總額及拂込額ノ登記抄本

六 抵當鐵道法ニ依リ認可ヲ受テ爲シタル鐵道及之ニ屬スル物件抵當ノ負債アルトキハ其ノ

前債總額及償還了了ハサル金額ノ登記抄本

七 前債ニ私設鐵道法ニ依リ認可ヲ受ケ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ總額及償還了了ハサル金額

ノ登記抄本

前項ニ於テ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證明ヲ

附テ之ヲ差付ス

第三條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於

テ鐵道抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ認可申請

書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條 第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 第一條第一號及第二號、第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條 抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第二條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由並年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ届出ツヘシ

第七條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ鐵道財團目錄ノ外第二條第一項第三號及第四號ニ掲ケル書類ヲ添附スヘシ

第八條 鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條 鐵道抵當原簿ハ別記第一號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 鐵道財團目錄ハ別記第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條 鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ届書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ノ様式ニ依リ掲グヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

第十三條 鐵道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印シ正本一通副本二通ヲ差出スヘシ

一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

六 免許ニ附シタル條件

七 抵當權ヲ設定シタルコト

八 抵當權設定認可ノ年月日

九 登録税額

第十四條 登録ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス  
第十五條 登録申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登録済證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條 第十三條ノ規定ハ登録シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登録申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 登録ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ申請者ニ通知シ登録申請書ノ副本ニ登録済ノ旨ヲ記載シ官印ヲ捺捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十八條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十九條 鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條 鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二十一條 鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ  
一 申請者及對手人ノ名稱、住所  
二 裁定事件ノ表示

三 申請ノ要旨及理由  
第二十二條 前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス  
必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者、對手人ヨリ答辯書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得  
第二十三條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ  
一 申請者及對手人ノ名稱、住所  
二 裁定事件ノ表示  
三 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條 必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得  
第二十五條 裁定申請者若ハ對手人期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セザルトキハ相手方ノ意見ヲ聞キ裁定ヲ爲スコトヲ得  
第二十六條 第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十七條 執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請書署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ  
第二十八條 債務者及鐵道財團所有者ノ名稱及住所  
第二十九條 債權者ノ名稱及住所  
第三十條 債權ノ種類及額  
第三十一條 債權ノ発生年月日  
第三十二條 債權ノ消滅年月日  
第三十三條 債權ノ擔保ノ種類及額  
第三十四條 債權ノ履行期日  
第三十五條 債權ノ履行場所  
第三十六條 債權ノ履行方法  
第三十七條 債權ノ履行費用  
第三十八條 債權ノ履行擔保  
第三十九條 債權ノ履行方法  
第四十條 債權ノ履行費用  
第四十一條 債權ノ履行場所  
第四十二條 債權ノ履行方法  
第四十三條 債權ノ履行費用  
第四十四條 債權ノ履行場所  
第四十五條 債權ノ履行方法  
第四十六條 債權ノ履行費用  
第四十七條 債權ノ履行場所  
第四十八條 債權ノ履行方法  
第四十九條 債權ノ履行費用  
第五十條 債權ノ履行場所

第二十八條 管理人推薦立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ  
一 債權者ノ名稱及住所  
二 債權ノ種類及額  
三 債權ノ発生年月日  
四 債權ノ消滅年月日  
五 債權ノ擔保ノ種類及額  
六 債權ノ履行期日  
七 債權ノ履行場所  
八 債權ノ履行方法  
九 債權ノ履行費用  
十 債權ノ履行擔保  
十一 債權ノ履行方法  
十二 債權ノ履行費用  
十三 債權ノ履行場所  
十四 債權ノ履行方法  
十五 債權ノ履行費用  
十六 債權ノ履行場所  
十七 債權ノ履行方法  
十八 債權ノ履行費用  
十九 債權ノ履行場所  
二十 債權ノ履行方法  
二十一 債權ノ履行費用  
二十二 債權ノ履行場所  
二十三 債權ノ履行方法  
二十四 債權ノ履行費用  
二十五 債權ノ履行場所  
二十六 債權ノ履行方法  
二十七 債權ノ履行費用  
二十八 債權ノ履行場所  
二十九 債權ノ履行方法  
三十 債權ノ履行費用  
三十一 債權ノ履行場所  
三十二 債權ノ履行方法  
三十三 債權ノ履行費用  
三十四 債權ノ履行場所  
三十五 債權ノ履行方法  
三十六 債權ノ履行費用  
三十七 債權ノ履行場所  
三十八 債權ノ履行方法  
三十九 債權ノ履行費用  
四十 債權ノ履行場所  
四十一 債權ノ履行方法  
四十二 債權ノ履行費用  
四十三 債權ノ履行場所  
四十四 債權ノ履行方法  
四十五 債權ノ履行費用  
四十六 債權ノ履行場所  
四十七 債權ノ履行方法  
四十八 債權ノ履行費用  
四十九 債權ノ履行場所  
五十 債權ノ履行方法

第十號	第十號	第十號	第九條	第八號	第七號	第六號	第五號	第四號	第三號
抵當權ヲ設定シタル事	抵當權設定ノ認可年月日	利息支拂期ノ方法	利率	元金償還ノ方法	債權額	抵當權ノ順位	抵當權者ノ名稱及住所	債務者ノ名稱及住所	鐵道財團所有者ノ名稱及住所

一 管理入タルハキ者ノ名稱、住所  
 二 管理入タルニ適當ト認メタル事由及經歷  
 第二十九條 發行人ニ於テ會社設立ノ行爲ニ著手シタルトキハ一週間内ニ假定款ヲ添付シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附 則

第三十條 本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

(第一號様式)

鐵道抵當原簿

逓信省鐵道局

第二號	第一號	登錄番號	部題表	號	備考
免許條件	財團所屬線路				

















甲區事項欄ニハ業主權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ典權胎權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ農耕權ニ關スル事項ヲ記載ス

第七條 登記ヲ申請スル者ハ土地臺帳所管廳ノ下付シタル土地臺帳謄本ヲ提出スヘシ但シ既登記ノ土地ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 登記官吏ハ申請ニ係ル登記事實ヲ調査シ其ノ事實眞正ナラスト認ムルトキハ理由ヲ付シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス

前項ノ調査ハ他官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

發記官吏カ登記事實ヲ調査スルニ付日時ヲ要スル場合ニ於テ同一ノ土地ニ關シ他ノ登記申請アリタルトキハ職權ヲ以テ前ノ登記申請ノ爲メ假登記ヲ爲スコトヲ要ス

前ノ登記申請ヲ却下シタルトキハ前項ノ假登記ハ職權ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

第九條 土地臺帳所管廳ハ未登記ノ土地ニ付テハ不動産登記法第十一條第二項ノ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第十條 第一條ニ掲ケタル事項ヲ目的トスル法律行爲ニ付公正證書作成ノ申請ヲ爲シタル者ハ同時ニ其ノ登記ノ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

公證官吏ハ公正證書ヲ作リタルトキハ遲滞ナク管轄登記官廳ニ登記ヲ囑託スヘシ

第十一條 此ノ規則ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第十二條 此ノ規則ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條 此ノ規則施行前ニ設定シタル典權、胎權及農耕權ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年內ニ

此ノ規則ニ依リ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 明治三十六年律令第二號ニ依リ設定シタル胎權ニ關シテハ仍同令ヲ適用ス

第十五條 此ノ規則ハ明治三十七年律令第三號中登記ノ取扱ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

臺灣土地登記規則施行規則 (明治三十八年六月臺灣總督府令第四十三號)

臺灣土地登記規則施行規則左ノ通相定ム

臺灣土地登記規則施行規則

第一條 臺灣土地登記規則ニ依ル土地ノ登記ハ此ノ規則ニ於テ特ニ規定スルモノノ外明治三十二年(五月)司法省令第十一號不動産登記法施行細則ニ依ル但シ同則中司法大臣トアルハ臺灣總督、地方裁判所トアルハ覆審法院、區裁判所トアルハ地方法院及其ノ出張所、區裁判所出張所ト

アルハ地方法院及其ノ出張所管内登記所、市、區、町村長トアルハ廳長又ハ支廳長トス

土地臺帳謄本ハ之ヲ設備セス

第二條 土地登記簿ハ別記第一號雛形ニ依リ覆審法院ニ於テ調製シ登記官廳ノ請求ニ因リ之ヲ交

付スヘシ

第三條 印鑑ハ別記第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條 官廳又ハ公共ノ團體ノ公賣處分、土地收用又ハ遺言ニ因ル未登記ノ土地業主權移轉ノ登

記ノ申請又ハ囑託アリタルトキハ不動産登記法第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス未登記ノ土地業主

權ノ申請又ハ囑託アリタルトキハ不動産登記法第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス未登記ノ土地業主

權ノ申請又ハ囑託アリタルトキハ不動産登記法第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス未登記ノ土地業主

權移轉ノ判決アリタルトキ亦同シ

第四條ノ二 民事訴訟法第五百五十九條ニ依ル和解、民事訴訟法特別手續第二十六條ニ依ル請求ノ認諾及聽ニ於テ成立シタル民事爭訟調停證書ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ(三八年臺灣總督府令第七五號ニテ本條新置)

前項ノ申請アルタル場合ニ於テ其ノ土地カ未登記ナルトキハ不動産登記法第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス

第五條 公業ニ屬スル土地ノ登記ハ其ノ管理人ヨリ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登記官吏ハ業主名ノ外其ノ管理人ノ住所氏名ヲ土地登記簿ニ記載スヘシ

第六條 公業管理人ノ變更アリタルトキハ新管理人ヨリ變更ノ登記ヲ申請スヘシ

登記官廳ハ公業管理人ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第七條 舊價ニ依リ厝地ト厝屋ト分ツヘカラサルトキハ建物敷地ノ登記中ニ建物ヲ包含セシメテ登記ス此ノ場合ニ於テハ土地登記簿中表示欄建物敷地ノ次ニ建物ヲ表示スヘシ

第八條 前條厝屋ノ登記ニ關シテハ不動産登記法中建物ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 厝屋ト厝地トナ分離シテ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲ストキハ厝屋ノ登記ノ抹消ヲ申請スヘシ

第十條 第七條ノ厝ニ關スル權利ハ之ヲ土地ニ關スル權利ト看做ス

第十一條 墾耕權ハ耕作、牧畜其ノ他農業ヲ目的ト爲ス土地ノ賃借トス

第十二條 地方役區、罹災救助基金、公學校、學租財團、仁濟院、慈惠院及普濟院カ土地ニ關スル權利ニ付爲スヘキ登記ニ關シテハ不動産登記法中公署ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 臺灣總督府ノ所管ニ係ル土地ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ臺灣總督ノ告示ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス各省ノ所管ニ係ル土地ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ明治三十五年勅令第五號ニ基キ各省大臣ノ指定シタル官吏亦同シ

第十四條 臺灣土地登記規則施行後新ニ土地臺帳ニ登録セラレタル土地ニ關シ其ノ登録前設定シタル典權、胎權及墾耕權ハ土地臺帳登錄ノ日ヨリ六箇月内ニ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 臺灣土地登記規則施行前ニ設定シタル典權胎權及墾耕權ニシテ登記規則施行設定ノ登記ヲ爲サスシテ其消滅ノミノ登記ヲ申請スル者アリタルハ先ツ職權ヲ以テ典權胎權墾耕權設定ノ登記ヲ爲スヘシ(三八年八月臺灣總督府令第六一號ヲ以テ本條ヲ新置シ同年一〇月同令第七五號ヲ以テ「典權」ノ下ニ「胎權及墾耕權」ノ五字ヲ加フ)

前項ノ場合ニ於テ土地臺帳所管廳ニ對シテハ土地臺帳ニ典權胎權及墾耕權設定ノ記載アル場合ニ限リ消滅登記ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

(別記)

第一號雜形



		第	號	登記
(權主業)區		(示表地土)部題表		
番順位	事項欄	番表	示	欄
番順位	事項欄	番表	示	欄
番順位	事項欄	番表	示	欄

土地登記簿

紙數表紙ヲ除キ  
枚

覆審法院長

土地登記簿

地方法院(出張所)

丙 區 (權耕墾)		乙 區 (權及典胎權)	
番順位	事項欄	番順位	事項欄
番順位	事項欄	番順位	事項欄
番順位	事項欄	番順位	事項欄

第二號雛形(用紙厚紙堅四寸橫一寸)

住所	印鑑
氏名	
生年月日	

(注意) 法人ノ代表者又ハ公業ノ管理人ナルトキハ氏名ノ肩ニ其ノ所在地、名稱並其ノ資格ヲ記載スヘシ

**臺灣土地登記稅規則** (明治三十八年五月律令第五號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣土地登記稅規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス  
臺灣土地登記稅規則

- 第一條 土地ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ
- 一 相續ニ因ル業主權ノ取得
    - 土地ノ價格 千分ノ十五
  - 二 遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル業主權ノ取得
    - 土地ノ價格 千分ノ四十
  - 三 前二號以外ノ原因ニ因ル業主權ノ取得

- 四 土地ノ價格 千分ノ三十
- 四 從來保有セル業主權ノ保存 土地ノ價格 千分ノ三
- 五 共業地ノ分割 分割ニ因リテ受クル土地ノ價格 千分ノ六
- 六 墾耕權ノ取得 存續期間二十年未滿 土地ノ價格 千分ノ三
- 存續期間五十年未滿 土地ノ價格 千分ノ六
- 存續期間五十年以上 土地ノ價格 千分ノ八
- 存續期間ノ定メナキモノ 土地ノ價格 千分ノ六
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登記稅ヲ計算ス
- 七 典權、胎權ノ取得 債權金額 千分ノ十
- 但シ債權金額ナキトキ又ハ典權、胎權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ典權、

- 八 胎權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ七
- 但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 九 假差押、假處分 債權金額 千分ノ五
- 但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十 胎權ノアル債權ノ差押 債權金額 千分ノ七
- 但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十一 相續財産ノ分離 業主權ニ付テハ 土地ノ價格 千分ノ七
- 業主權以外ノ權利ニ付テハ 土地ノ價格 千分ノ二
- 十二 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

土地每一筆

金三十錢

十三 假登記

土地每一筆

金三十錢

十四 附記登記

土地每一筆

金十五錢

但シ一件ニ付稅額金四十五錢ヲ超ユルトキハ金四十五錢トス

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

土地每一筆

金十五錢

但シ一件ニ付稅額金四十五錢ヲ超ユルトキハ金四十五錢トス

第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共業地持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第二條 業主權方法人ノ性質ヲ有スル公業ニ移轉スルトキハ前條第二號ノ登記稅ヲ納ムヘシ

第三條 登記稅ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ但シ登記稅額二百圓以上ナルトキハ現金ヲ以テ納付セ

シムルコトヲ得

第四條 登記稅ハ總テ金一錢以上トス金一錢未滿ノ端數ハ金一錢トシテ計算ス

第五條 左ニ提クルモノニハ登記稅ヲ課セス

一 政府自己ノ爲ニスル登記

二 街庄其ノ他公共ノ團體ニ於テ公用ニ供スル土地ノ登記

三 祠廟ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記

第六條 登記官廳ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評

價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セザルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム  
前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費日當ハ登記申請者ノ負擔トス其ノ額ハ臺灣總督之ヲ定ム  
官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者評價人トナルコトヲ得ス  
附則  
此ノ規則ハ臺灣土地登記規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 臺灣土地登記稅規則施行規則

(明治三十八年六月臺灣總督府令第四十五號)

臺灣土地登記稅規則施行規則左ノ通相定ム

臺灣土地登記稅規則施行規則

第一條 印紙ヲ以テ納ムル土地登記稅ハ登記申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 現金ヲ以テ納ムル土地登記稅ニ地方廳ハ納付シ其ノ稅金領收證ヲ登記申請書ニ添付スヘシ

土地登記稅納付書ハ別記様式ニ依ルヘシ

第三條 官廳ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登記稅ヲ納ムヘキ者ニ相當印紙又ハ現金ノ領收書ヲ提出セシメ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ其ハ其ノ領收證ヲ添附シ

テ登記官廳ニ送致スヘシ

第四條 登記官廳ハ印紙ヲ貼用シタル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ印紙ヲ黒肉ヲ以テ消印スヘシ